



建築と社会

Architecture and Society

特集 第27回会員作品“私の空間作法”

日本建築協会

2021 02

vol.102 No.1187

若き創造者たちへ

「第68回青年技術者顕彰」のご案内

日本建築協会では、昭和29年（1954年）から「青年技術者」を表彰してきました。これは、35才以下の優秀な設計者、技術者、研究者等を対象とするもので、若手建築技術者のいわば登龍門として定着しています。

今年も、青年技術者選考委員会を設けて、これまでどおり、計画・設計・構造・設備・施工およびその他の分野について青年技術者を表彰します。

選考は有職者による選考委員会が行い、選出された方は、本会総会での表彰、「建築と社会」への掲載等を予定しています。建築界の様々な分野で活躍されている皆様の積極的なご応募をお待ちしています。

応募提出規定

1. 応募できる人は満35歳（2021年3月31日現在）以下の青年技術者であって、**本会個人会員**に限る。
2. 原則として、すいせん者を併記する。
すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司が上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。
3. 応募分野は特定しない（建築に関するあらゆる分野を対象とする）。応募者は、たとえば計画、一般設計、住宅・インテリア設計、構造、設備、施工、技術開発、行政、情報、コーディネート等の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、下記の所要資料を1部、本会に期日までに提出する。
4. 提出された資料は「青年技術者選考委員会」において選考する。
5. 「青年技術者選考委員会」において選出された青年技術者は本会総会において表彰し、「第67回青年技術者特集号」（2021年7月号予定）に掲載する。

6. 提出資料

■応募用紙

本会事務局で発行、またはホームページからダウンロードしてください。

■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

■選考資料（A、BあわせてA3版6枚以内／書式は任意）

A：業績資料

- ① 設計の場合——鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料
- ② 計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む）——上に準じた資料
- ③ 上記以外の分野の場合——それぞれの分野にふさわしい資料

B：青年技術者の思い

業績資料に記載した業績において、本人が特に貢献した、力量が活かされた、と思われる部分を説明してください。また、本人の建築、都市、環境などに対する考え方、取り組み姿勢や将来展望等についてまとめてください。文字だけでなく必要に応じて図表、写真等も用いてもかまいません。ただし、応募者本人の執筆に限ります。業績資料の中に内容を含めても良いです。（**応募者の考え方を知る上で大変重要と考えていますので、十分配慮をしてください。**）

7. 提出期限 2021年3月31日（水）

8. 提出先 （一社）日本建築協会「青年技術者選考委員会」

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31

大阪マーチャングイズ・マート7階

電話 06-6946-6981 FAX. 06-6946-6984

E-mail : jigyoka@aaj.or.jp

9. 提出方法 郵送（当日消印有効）または持参

10. 青年技術者選考委員会

委員長 中原 岳夫／(株)安井建築設計事務所大阪事務所設計部部長

委員 駒井 陽次／(株)Style-A一級建築士事務所代表取締役

橋本 修／(株)昭和設計執行役員

松原 茂樹／大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻准教授

水方 秀也／(株)竹中工務店開発計画本部長（西日本担当）

阿蘇品尚士／(株)東畑建築事務所
執行役員本社オフィス東京代表

瀧野 敦夫／奈良女子大学生活環境学部住環境学科講師

小倉 良友／(株)日建設計エンジニアリング部門
設備設計グループシニアディレクター

古久保 真／清水建設(株)関西支店設備設計部副部長

山口 善史／(株)大林組大阪本店建築事業部生産技術部長

青木 康造／大成建設(株)関西支店建築部品品質管理室長

東海支部主催見学会 春華堂 新本社ビル 「スイーツバンク」 ずだじこども園・ ずだじ幼稚園

うなぎパイで親しまれる春華堂の新本社ビル「スイーツバンク」は、鉄骨造2階建て、本社オフィスに加え、一般向けの販売店とカフェ（レストラン）、浜松いわた信用金庫森田支店を含む複合施設で4月にオープンを予定している施設です。菓子から連想される「家族団らんの時間」を表現すべく、外観はテーブルとイスをモチーフにしたという他に例のないプロジェクトです。

見学会は設計を担当した日建設計の意匠担当者が同行し説明と質疑応答を予定しています。

ずだじこども園、ずだじ幼稚園は地元浜松で活動するナウハウスによる設計です。いずれも中部建築賞をはじめ各種建築賞を受賞している見どころの多い建築作品です。

当日は見学後にナウハウスを訪ね事務所を見学し、懇談会を予定しています。

いずれも又とない機会です。お見逃しなく。

日時 2021年 3月26日(金)
13:00~17:30

受付 12:45~

所在地 ◆春華堂新本社ビル
(浜松市中区神田町553)
◆ずだじこども園・ずだじ幼稚園
(浜松市南区恩地町291)
◆ナウハウス
(浜松市南区頭陀寺330-20)

集合 春華堂新本社ビル
最寄駅 JR浜松駅から遠鉄バスにて「よろい橋」下車徒歩約5分
定員 30名(先着順)
参加費 500円(資料代)

申込方法 ①催し名
「浜松建物見学会」
②氏名(ふりがな)
③所属
④連絡先E-mailアドレス
⑤連絡先FAX番号
⑥連絡先電話番号・E-mail
上記項目を明記の上E-mail
またはFAXでお申し込み
ください。

申込先
(一社)日本建築協会東海支部浜松
建物見学会担当宛
Tel:052-201-2201/Fax:052-201-3601
E-mail info@aa-jtokai.jp



会告

日本建築協会東海支部主催 建築工事实務講習会

※開催日が変更になりました

この講習会は、建築CPD情報提供
制度認定プログラムです。
(公社)愛知建築士会 (6単位)

日 時：2021年 3月17日(水)
9:30~17:00
会 場：名古屋商工会議所ビル 9階
愛知建築士会内
名古屋市中区栄2-10-19
定 員：40名(先着順)
受講料：16,000円(含テキスト代 税込)
※テキスト当日配布

■申込方法

FAXまたはE-mailにて

- ①講習会名
- ②郵便番号・住所
- ③受講者氏名・年齢
建築CPD単位申請希望者は氏名の
下にCPD登録番号を明記
- ④事業所名
- ⑤申込担当者名
- ⑥電話番号・FAX番号・E-mailアドレス
- ⑦受講料支払方法(銀行振込等)

受講料は前払制となっていますので、併せて銀行振込等で納入して下さい。受講料入金確認後、受講番号をE-mailまたはFAXで通知します。なお、日本建築協会東海支部HPから受講申込書のダウンロードができますので、<http://www.aaj-tokai.jp>をご覧ください。

■締切日 2021年3月10日(水)
但し、定員に達し次第締め切ります。

<振込先>

- 三菱UFJ銀行
栄町支店(普通 0167157)
シャ)ニホンケンチュウキョウカイトウカイシブ
一般社団法人日本建築協会東海支部

■申込先

(一社)日本建築協会 東海支部
〒460-0008
名古屋市中区栄2-10-19
名古屋商工会議所ビル・9階
(愛知建築士会内)
TEL: 052-201-2201
FAX: 052-201-3601
E-mail: info@aaj-tokai.jp
URL: <http://www.aaj-tokai.jp>

定員を従来より減らし、新型コロナウイルス感染防止対策を行い開催いたします。ぜひご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
※セミナー当日は必ずマスクを着用していただき、発熱・咳等の症状が見られる場合には、受講をご遠慮ください。入金後、受講者を変更される場合は、事前にお知らせください。

■趣旨と内容

- 本講習会は、官公庁・設計事務所・建設業をはじめ、設備・営繕など幅広い分野の技術者を対象としたものです。
- 現場技術者の初級者を対象に、とくに取り付きにくい施工計画と仮設見積、現場実務の基礎である積算業務に重点をおき、講義します。
- 都市環境の変化に伴う法令・基準の改正なども加え、技術の進歩に即応した知識の習得をはかります。
- 積算業務では具体例により、その着工準備から完成に至るまでをわかりやすく解説します。

施工計画

日吉 智紀 氏

清水建設㈱名古屋支店
生産技術統括部生産技術グループ主査

適切な施工計画を立案できることが建築現場技術者の必須条件です。安全で、経済的な施工計画を解説します。

仮設見積

池戸 幸二 氏

㈱大林組名古屋支店
建築工事部建築生産技術第一課長

仮設工事費は、一般には非常に把握しにくい面があって、つつい単位面積当たり、あるいは請負金比率のみで処理されがちです。施工計画に基づいた合理的で迅速な見積方法を解説します。

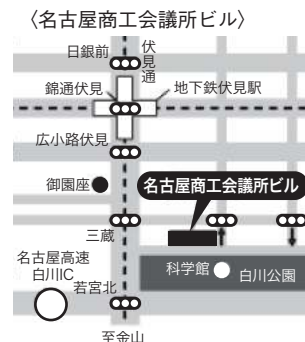
積算業務

木原 陽 氏

㈱竹中工務店名古屋支店
見積部建築2グループ主任

見積業務のなかで基本となるのは、数量積算です。この手順・基準を基本に、より合理的で正確な積算業務を解説します。

■講習会会場



2020年度建築工事实務講習会 大阪開催の中止について

1月14日(木)に予定していました大阪開催の2020年度建築工事实務講習会は、新型コロナウイルスの感染が急拡大し、大阪に緊急事態宣言が再発令された状況を鑑み、参加者のみなさまの安全を最優先に考え、やむなく一旦中止いたしました。

新型コロナウイルス感染症の今後の状況を見て、できるだけ早い時期に再開したいと考えております。

開催が決まり次第、改めてご案内をさせていただきますので、その折はぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。

建築と社会

Architecture and Society
Journal of the Architectural Association of Japan

日本建築協会

2021 02

Vol.102 No.1187

■特集予告

● 3月号／東海支部特集

● 4月号／建築と社会の時代性を考える（仮）

特集 第27回会員作品 “私の空間作法”

「和」の本質を追求した空間づくり●内藤多加志	8
透過するモノリスなファサード●伊達 翔	9
浮いたエントランスアプローチ●重石真緒	10
思いに寄り添うダイナミックリズム●山本俊輔・安東正一	11
笑顔のあふれる新工場 SEIBAN SMILE FACTORY●井坂恵美子	12
丘陵地に立つ研究所●滝西泰勲	13
まちなか潤い空間を求めて●元廣清志	14
異なる表情を生み出す折板状建築●現代設計	15
蔵の居住用途へのコンバージョン●貴志泰正	16
一軒の町家から…時間をつなぎ続ける未来の町家のあり方を探る	
●伊熊昌治・高木恭子	17
残すという未来●吉永規夫	18
泊まれる学校●池上 明	19
静謐な空間・住まい●岸	20
隙間で見つける家族の居場所●平岡翔太	21
生きられる舞台 一光・風景・家族に出会うすまい●三谷帯介	22
前山に応える大屋根の家●新居照和&ヴァサンティ	23

会告	若き創造者たちへ「第68回青年技術者顕彰」のご案内 東海支部主催見学会 春華堂新本社ビル「スイーツバンク」 ずだじこども園・ずだじ幼稚園	1
	東海支部主催 建築工事実務講習会、 2020年度建築工事実務講習会 大阪開催の中止について	2
作品作風	上原成商事株式会社本社ビル	4
gallery	山椒の実のように●徳岡聡一	6
法令コーナー	社会実験まちなかオープンテラス～浜松市の新しい 生活様式への対応と公共空間の利活用～●鳥居政也	24
再読 関西の建築	大阪府立青少年海洋センター●福原和則	25
設備の頁	「クリーンパーティション」 ～様々な分野で活用可能な超薄型空気清浄機●平松和也	29
建築と社会を 考える	東日本大震災被災地における高齢者の孤立化防止に関する 研究～防災集団移転地を事例として～●中島美登子	30
information	特別展「こわくて、たのしいスイスの絵本展～クライド ルフ、フィッシャー、ホフマンの世界～」／岩崎家のお雛 さま／2021年コレクション展Ⅰ 特集「同級生・同窓生」 ／特別展 日本の色 吉岡幸雄の仕事と蒐集	34
月間の動き	2020年12月	36

今月の表紙

撮影者：内山貴裕（うちやま たかひろ）

撮影場所：雲仙観光ホテル

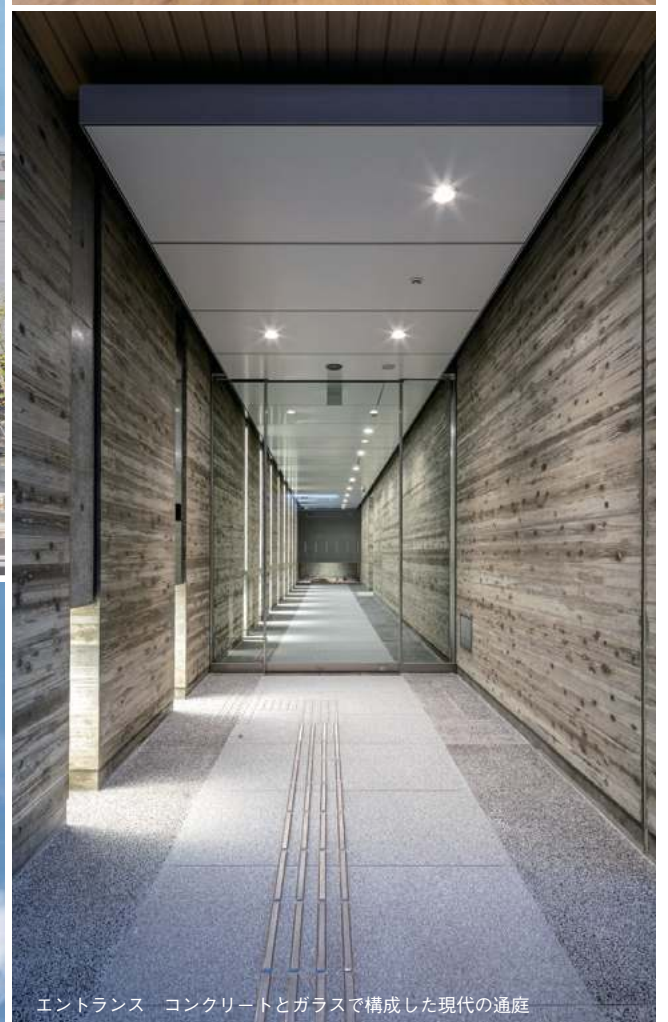
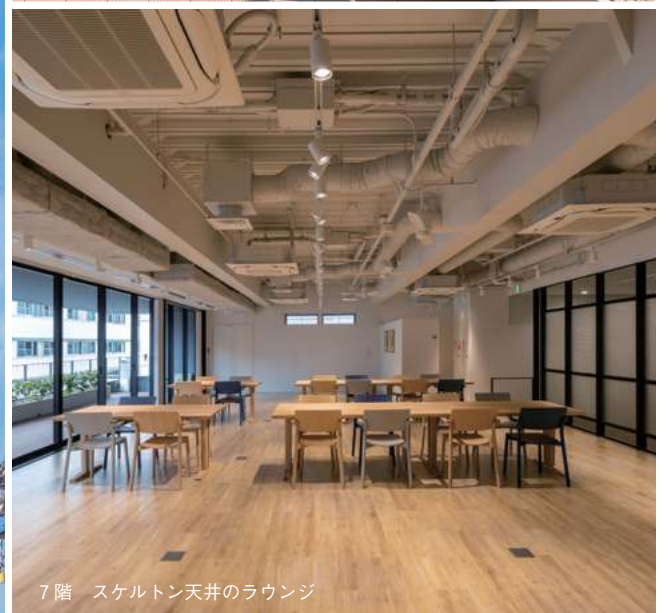
撮影時期：2019年7月

写真について

昭和の初め、外国人観光客誘致による外貨獲得の国策として外国人向けのホテルが日本各地に建設された。

このホテルは昭和10年（1935年）10月10日にオープン。竹中工務店の設計・施工第1号ホテルである。（設計：早良俊夫）

現在、国の登録有形文化財であるクラシックホテルの廊下は、静謐な空気が流れていた。



上原成商事株式会社本社ビル

建 築 主 上原成商事株式会社
 設計・監理 大林組大阪本店一級建築士事務所
 施 工 大林組・金下建設共同企業体

計画地は烏丸御池の北東に位置する。至近にある旧本社は御池通沿いの複合ビルにあったが、新本社ビルは京風情が残る車屋町通に面して、本社機能のみの規模で計画した。

【京町家の構成を立体化】

表の通りから奥庭まで「ミセ／ダイドコ／ザシキ」の空間を通庭でつなぐ伝統的な京町家の構成を、本社ビルとして現代的にアレンジし、車屋町通から続く細長いエントランス、階段・エレベータの縦動線を通庭と見立て、「玄関、応接室／執務室／会議室、ラウンジ」を上下に重ねた。外観は3つのボリュームが3、7階の緑溢れるバルコニーを挟む形とし、三段構成を表現した。各ボリュームの外装は、京町家になじみ深い、出格子・障子・虫籠窓をデザインのモチーフとし、街並みとの調和と本社ビルとしての佇まいの両立を図っている。

【継承されるワンルーム空間 “水平から垂直へ”】

旧本社において全社員が1フロアで業務を行っている姿を見て、かの松下幸之助氏が感銘を受けられたという逸話がある。本計画では、4、5、6階の3層に執務室を設け、平面中央の吹抜により立体的にひとつつながりとなるワンルーム空間とした。フロアを跨いでいても、常に人の気配が感じられ、全社員が以前と変わらず一つ屋根の下で働く雰囲気を得られるよう配慮した。吹抜内の階段により上下階の移動を促し、中間の5階には共用スペースを設け、人が集まるマグネツスペースとした。

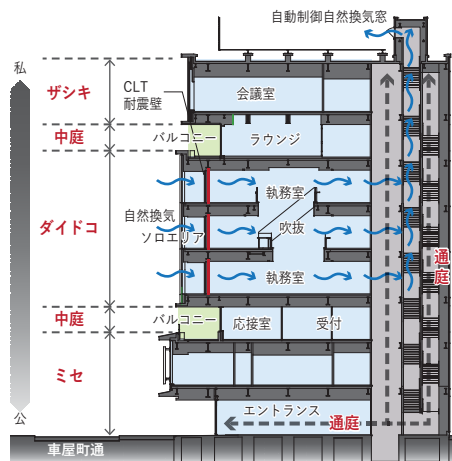
【CLTが実現する多機能縁側空間】

通りに面する東側のファサードの開放性を確保し、建物の安全性を高めるために、窓際ではなくやや内側にCLT材を使用した耐震壁を配置した。結果、ファサードとCLT耐震壁との間に縁側空間が生まれ、集中して作業ができるソロエリアとすることで、吹抜を中心としたコミュニケーションエリアと併せ、メリハリのついた多様な働き方をサポートする執務空間となっている。ファサード端部にある換気口から、縁側、執務空間を経由し、階段室（通庭）頂部の換気口から排出する自然換気システムを導入、室内に空気の流れを取り込む京町家の知恵を用いた。

7階バルコニーからは、遠くに五山の送り火が見える。新本社では、眺望や内部の立体的な繋がりとといった旧本社にない付加価値を提供し、まちとの関わり方も新たに。コロナ渦での船出となったが、安全性や快適性と共に、多様な働き方を実現し、環境変化に柔軟に適應する建物として、長く使い続けられることを期待する。

（松井宣明、神谷浩司、南野剛也／大林組）

所 在 地 京都市中京区車屋町通
 御池上ル塗師屋町
 敷地面積 487.94㎡
 建築面積 385.95㎡
 延べ面積 2,790.067㎡
 構造規模 S造
 地上8階、塔屋1階
 工 期 2019年11月～2020年11月
 最 寄 駅 京都市営地下鉄烏丸線
 烏丸御池駅
 撮 影 木原慎二／伸和



京町家の立体化



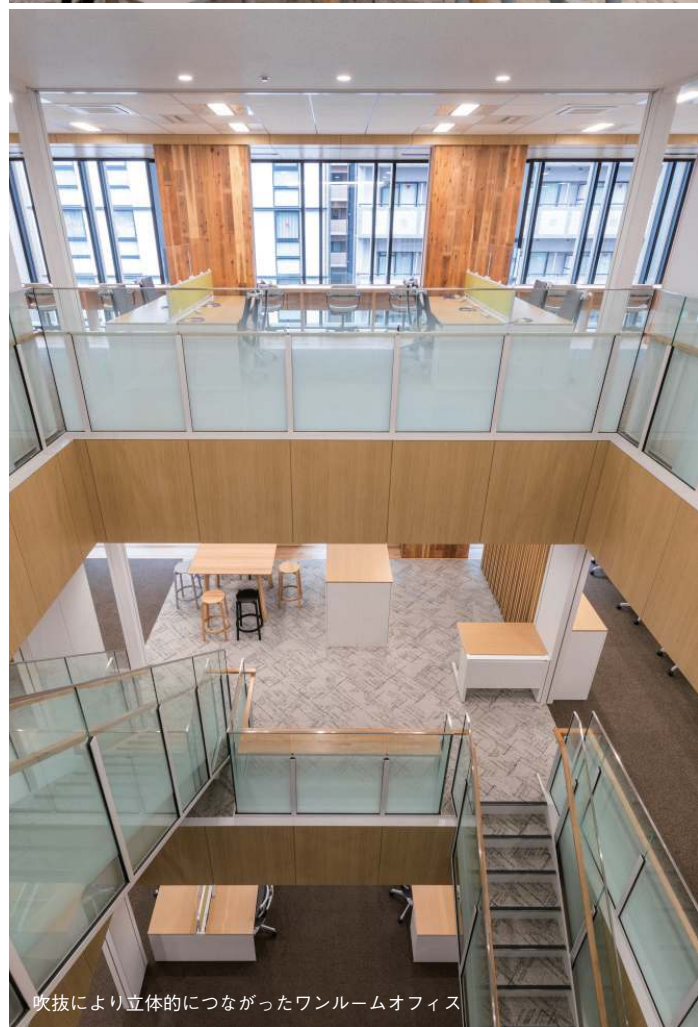
CLT耐震壁と木製格子戸により柔らかく仕切られた縁側空間



縁側空間はソロエリアとし両端に自然換気口を設置



吹抜階段の中間に位置する5階マグネツスペース



吹抜により立体的につながったワンルームオフィス

山椒の実の ように

設計・施工

徳岡 聡一

西日本の大動脈である国道2号線と大野川緑陰道路が交差する角地に45坪の狭小地で、1フロアを2戸でシェアする8階建て共同住宅である。

国道沿いには大小様々な建物が並び、桜の名所である緑陰道路とは対照的な周辺環境である。

小さな建物であっても多様性を表してみたくて、視線の移動とともに見える事象の変化が感じられるように形態と色彩に工夫を施した。

緑陰道路側は影の生じにくい、この建物では大きめの壁面であり、地上からグレーの空（都市的な空の色であるが）に同化していくグラデーションをイメージした。また遠景的に樹木の映える背景としての存在感も持たせた。

国道側はバルコニーの形態が立面を占めており、南面であることも相まって深い陰影を生じている。ここにオーナー企業のコーポレートカラーである緑色をバルコニーの先端と袖壁に着色しアクセントとした。

この緑色は、国道側からは見えるが緑陰道路からは見えない位置である。

樹木（緑）のある面には緑色の無い立面を、樹木（緑）の無い面には緑色のある立面を構成し、二面対比が多様性へ展開する「縁」となっている。

国道側には限られたスペースに樹木を植え、塗料ではない生命の緑を加えた。いつまでもこの生命を守り続けることができたならば「小粒でもピリリと辛い」存在であり続けるであろう。

徳岡 聡一（とくおか そういち）

株式会社徳岡工務店 代表取締役



ロケーション



緑陰道路と国道に面する敷地



緑陰道路側の立面



国道側の立面

企画編集：居内章夫（作品作風小委員会）

特集：第27回 日本建築協会会員作品

“私の空間作法”



歴史と街、残すという選択、街へのメッセージ、地域との共生、家族の居場所・住まい、
使う人の笑顔、廃校のリノベーション、自然との応答・借景、
動と静の対比、構造技術と意匠への昇華、「和」の探求、素材と表情、
建築を通じて社会を繋ぎ、歴史に敬意を払い未来を創る、
設計者の想い。
そこから生まれる珠玉の物語をご高覧ください。

会員の皆さまのますますのご活躍を、お祈り申し上げます。

「和」の本質を追求した空間づくり

内藤多加志 大成建設関西支店一級建築士事務所



ホテル京阪 京都駅南

京都駅に面して建つ宿泊施設の計画である。

国内外から訪れるゲストが京都らしさ・日本らしさを感じられるよう、格子行灯を思わせる外観や、木・竹・和紙などの素材感を持ったインテリアを採用するなど、「和」のイメージをもった要素で計画をまとめている。

また、ただ日本的なイメージの要素を利用するにとどまらず、トップライトや地窓など、自然の光を感じる場所を建物内の随所に設け、「小さな空間に対して広がりを与える」「外部空間と内部空間のあいまいな接続」といった本質的な「和」の空間構成を実現することを目指した。

(内藤多加志)

所在地	京都府京都市
施工	大成建設関西支店
建築面積	784.88㎡
延床面積	6,449.62㎡
構造規模	S造、地下1階・地上9階
竣工	2020年3月
撮影	秋田広樹／エスエス大阪支店

透過するモノリスなファサード

伊達 翔 大林組大阪本店一級建築士事務所



照明器具メーカーのショールームの建て替え。札幌で長年地域と密着して事業を行ってきたメーカーの歴史に敬意を表し、地域の固有性を表現した建築を目指しました。その手法として、北海道遺産の一つである江別レンガに着目しました。札幌には北海道庁旧本庁舎をはじめ、レンガを取り入れた建物が多く見られます。このような土地の固有性を新ショールームで表現するため、江別レンガを建物正面の外壁に取り入れました。「展示室には一切自然光を入れず、事務室には自然光を入れる。」という条件に対し、シンプルでモノリスなファサードとなるよう外壁はレンガで統一。展示室フロアはレンガで閉じ、事務室フロアはレンガとガラスブリックを組み合わせることで自然光を取り込みました。ガラスブリックはレンガと同形状で製作し、透かし積み工法で施工することで、レンガが浮いているような表情を持たせています。

素材とともに施設が土地に根付き、地域の方々に長く愛されるものとなることを願っています。

(伊達 翔)

大光電機株式会社
ライティングコア札幌

所在地	北海道札幌市中央区
施工	大林組
建築面積	174.34㎡
延床面積	872.69㎡
構造規模	RC造、地上5階
竣工	2020年3月
撮影	新津写真

浮いたエントランスアプローチ

重石真緒 大林組大阪本店一級建築士事務所



摂津工場209棟

広い工場敷地の一角にある倉庫で、巨大なボリュームに象徴的な風除室を構えることで敷地内からのエントランスの視認性を確保した。

基礎免震構造で1階フロアレベルを地盤面より1 m程高く設定している。免震エキスパンションジョイントを階段の中段蹴上部分にとり、階段の最上段免震側を下段部分の地球側から上部に浮かすことで床面に金物のない免震建物エントランスアプローチとした。鉄のプレート为基础梁から持ち出した構造とすることで、最上段を75mm厚におさえ、Z軸方向の免震クリアランスを確保している。

(重石真緒)

所在地	大阪府摂津市
施工	大林組大阪本店
建築面積	2,206㎡
延床面積	5,622㎡
構造規模	S造・免震構造、地上4階
竣工	2019年7月
撮影	秋田広樹／エスエス大阪支店

思いに寄り添うダイナミックリズム

山本俊輔・安東正一 スペースクリエーション



加古川市郊外に整備された自閉症・発達障害児者のための生活介護施設、ショートステイ、グループホームである。構想から10数年、運営主体である福祉法人及び家族会の思いに寄り添いながら計画を進めた。

■ダイナミックリズム

北側ファサードは用途（見守り、通風、眺望）の異なるランダムな窓を配置して、法人の療育プログラムである、みんなと動くことで参加する楽しみを感じる「ダイナミックリズム」を表現している。生活介護施設とグループホーム共通のデザインコードとして、入所される方々がそれぞれの個性を大切にしながら生き生きと暮らすことをイメージした。

■静と動の対比

日中活動の中心となる生活介護施設は動の空間として陸屋根・RC造のシンプルで機能的な建物とし、グループホームは静の空間として切妻屋根・在来木造の家庭的な温もりを感じる建物として、メリハリのある自立生活の拠点を目指した。

■地域との共生

前面道路に面する北側にグループホーム6棟を配置し、周辺住宅のスケール感や自然な街並みの繋がりを重視している。入所される方々が職員のサポートを得ながら地域の一員として共生することを目指した。

（山本俊輔）

コロロ学舎加古川
生活介護施設 加古川遊館
グループホーム 風翠

所在地	兵庫県加古川市
施工	淡路土建
建築面積	1354.34㎡
延床面積	2523.52㎡
構造規模	RC造・W造、地上2階
竣工	2019年12月
撮影	エスエス大阪支店

笑顔のあふれる新工場 SEIBAN SMILE FACTORY

井坂恵美子 清水建設株式会社関西支店一級建築士事務所



大きなウエルカムボードのような外観ファサード



子どもが寄りみちできるアプローチ空間



ブレ通学やランドセルの歴史を学ぶことのできる体験型ショップ・ミュージアム

創業100周年を迎え、次の100年に向けた新本社工場「SEIBAN SMILE FACTORY」の新築計画。
既存本社および既存工場3拠点を一ヶ所に集約して、生産の合理化・コミュニケーションの向上を図った。

SEIBAN SMILE FACTORYでは、笑顔があふれる空間を創ることをコンセプトに計画。
訪れる子どもたちはもちろん、大人も楽しむことができる工夫をちりばめた。

大きなウエルカムボードのような外観ファサード、子どもが寄りみちできるアプローチ空間、ブレ通学やランドセルの歴史を学ぶことのできる体験型ショップ・ミュージアム。

また、コーポレートロゴの「天使のはね」を建築の要素に取り入れ、「セイバンらしさ」を探しながら過ごせる楽しい空間に仕上げた。

(井坂恵美子)

セイバン本社

所在地	兵庫県たつの市
施工	清水建設
建築面積	7,152.92㎡
延床面積	8,757.55㎡
構造規模	S造、地上2階
竣工	2020年7月
店舗エリア	内装・展示
撮影	酒井文明／エスエス

丘陵地に立つ研究所

滝西泰勲 アーキスプランニング



ファームフーズ新研究所

京大桂イノベーションパークという丘陵に立つこの研究所（新館、奥に本館）は、産官学の協働により開発された研究
所用地の先端部分に、京都東山～南部を眺望出来る山林に囲まれた敷地にある。空と緑に恵まれた土地に、卵を中心と
する機能性食品研究開発の会社として、ゆったりとした空間を創る事がテーマであった。卵の白さと丸み、又階段を
中央部に据えて、内部の人が行き交う中でコミュニケーションの取れる空間とする事、外部の竹林を各所に借景として
取り入れるように構成した。打合せ、ミーティングは個室ではなく、広い1Fのホールに点在して、しかも隣の打合せが
気にならない静かな空間となった。
(滝西泰勲)

所 在 地	京都市西京区
工 場	浅沼組
建 築 面 積	473.52㎡
延 床 面 積	1481.36㎡
構 造 規 模	RC造、地上4階
竣 工	2019年9月
撮 影	芹野信人／アトリエノブ

まちなか潤い空間を求めて

元廣清志 元廣建築設計事務所



商店の立ち並ぶ古い町で、高齢化もあって、納骨堂設置の期待も高い事や、参拝者の駐車場を確保するなど、周りの歴史的景観にも配慮しながら計画を進めた結果、駐車場は、街のゆとりの空間を作り、住民にも配慮できた。本堂との景観的バランスも考え、寄棟の屋根を付け九輪を配し、全体のまちなみ景観に配慮した。内部は、本堂との連絡を考慮にいれ、EVを活用し高齢者にも配慮した。各階の通路には、スリット窓を配するなどの室内空間を大切に、ゆとりと気軽な参拝に貢献できた。1階通路には奥行きに対する不安解消の為、中間に巾の狭い光のスリットを壁、屋根で構成し、光を生かした空間構成を行っている。

(元廣清志)

西教寺三津田支坊納骨堂

所在地	広島県呉市三條四丁目13番7
施工	大之木建設
建築面積	132.26㎡
延床面積	410.20㎡
構造規模	RC造、4階
竣工	2018年11月
撮影	宇和写真広島

異なる表情を生み出す折板状建築

現代設計



MHビル

三鷹市に本社を構える、物流会社を統括するホールディングスのオフィスビル。ホールディングスとは多様な会社を包括するシステムであり、ゆえに会社の顔となるその建築も、画一的なものでなく多面的に捉えられるものであってほしい。計画に際し、物流業・運送業に端を発する会社の、仕事の確実性や徹底した規則そのものを体現する建築が相応しいと考えた。建物の性格上、周囲に埋もれてはならず、かといって存在が突出し過ぎるのも好ましくない。そこで、プライバシーの確保と開放性、騒音振動への配慮、外観の近寄り難さを避け親密な建物とする、等の条件を満足させるため、建物の四周においてそれぞれ性格の異なる顔をつくっている。

所在地	東京都三鷹市
建築面積	白石建設 83.25㎡
延床面積	250.59㎡
構造	WRC造、地上3階
竣工	2020年3月
撮影	Joaquin Mosquera

蔵の居住用途へのコンバージョン

貴志泰正 貴志環境企画室



before



実家の敷地内の離れで暮らす家族のための蔵の改修計画である。

子供たちの成長に伴い部屋が手狭になることが予想されたため、蔵を居住の用途にあてることが検討されたが、課題となったのは内部が暗いことであった。

厚い土壁に開口部を設けることには構造上不安があったため、屋根形状を変化させて、新たな屋根と既存の土壁の間に高窓を設けて光を取り込む計画とした。

その際、瓦屋根を金属屋根に葺き替えることで、既存の構造へかかる荷重を軽減している。

通常の住空間ではない蔵らしさの現代的な解釈として、内部の壁はOSBボードの印字面をあえて見せて仕上げ、床にはラワン合板を用いた。

2階の床の一部は光を透過するFRP製のグレーチングとし、階段部分と合わせて1階に光を落とす役割を果たす。

今回の計画を通して、蔵を現代的に有効利用するためのひとつの解決策を見つげられたのではないかと考えている。

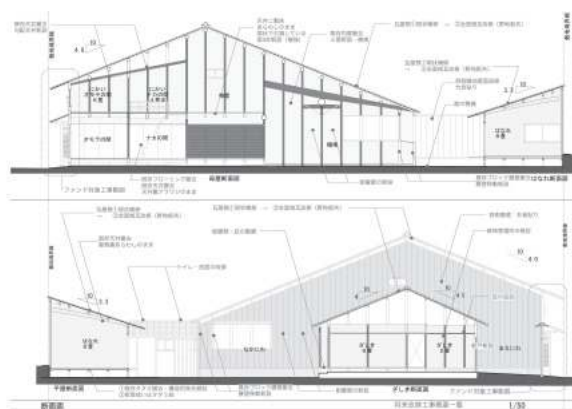
(貴志泰正)

くらでくらす

所在地	京都府久世郡久御山町
施工	尼崎工務店
建築面積	16.75㎡
延床面積	30.00㎡
構造規模	W造、地上2階
竣工	2019年8月
撮影	母倉知樹

一軒の町家から…時間をつなぎ続ける未来の町家のあり方を探る

伊熊昌治＋高木恭子 伊熊昌治建築設計事務所



町内は今宮祭の扇鉾を護り、今日でも綜紬やジャガード帯織が営まれている。しかし外部からの来訪や観光ルートが期待できる西陣景観保存地域外のためか、残る町家は僅かとなり、今後町家による統一的な景観形成は期待できない町内でもある。そんな町で祖父から受け継いだ築100年近い織屋建町家を、家業の緞れ織工房として活用するプロジェクトである。

50年以上貸家であった町家は、建設当初より大きく改変されており、何を指すのかが模索された。そこで耐震設計や将来活用の計画を作成したが、今全てを解決する方法ではなく、今回はあえてファサードのみの改修とし、将来の状況に応じて流動的に徐々に改変をする方法を選択した。

町も人も異なる居住経験で繋げてきた「らしさ」は、意識的な時間軸の導入で今後も多様な経験を共存させる「活きた『らしさ』」をつくる、という手法の導入により保存・再生・活用に新たな視点を加えるのではないかな。

(伊熊昌治)

西陣服部邸

京都市歴史的風致形成建造物指定
京町家まちづくりファンド改修助成事業

所在地	京都市上京区
施工	渡文工務
建築面積	177.99㎡
延床面積	220.72㎡
構造規模	伝統木造、地上2階

残すという未来

吉永規夫 Office for Environment Architecture



撮影 岡田和幸

ヨシナガヤ012



撮影 YOSHIHIRO KOITANI

ヨシナガヤ015



撮影 大坊崇

ヨシナガヤ018



撮影 YOSHIHIRO KOITANI

ヨシナガヤ013



撮影 大坊崇

ヨシナガヤ016



撮影 大坊崇

ヨシナガヤ019



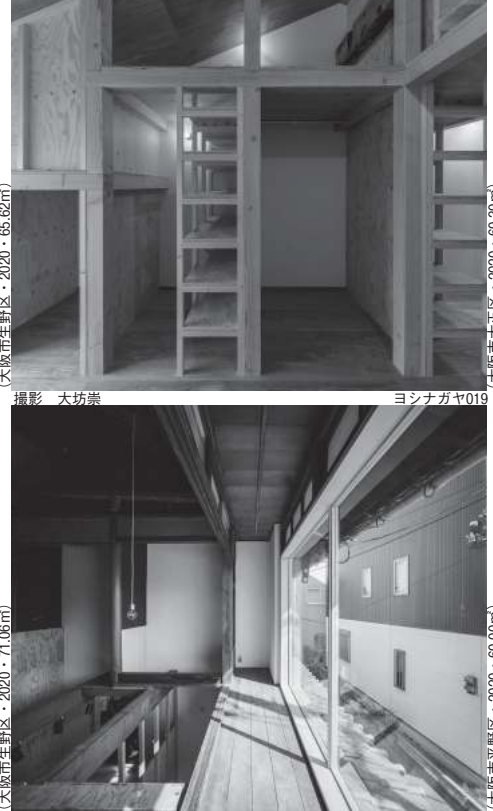
撮影 高橋菜生

ヨシナガヤ014



撮影 大坊崇

ヨシナガヤ017



撮影 岡田和幸

ヨシナガヤ020

2014年から始めた長屋のリノベーション・ヨシナガヤも20軒になった。何を残すか、何が残るか、残すべきものは何か、残せないものは何かを日々考えながら実践している。大阪都市居住の原型である長屋は戦前に大量に「標準化」してつくられたものだが、現代社会の「多様化」にも対応しうる柔軟さをもっている。残すことを通じて新しい価値を共有し、未来を創造できると信じている。

(吉永規夫)

ヨシナガヤ012-020

施工 キドビル工務店
吉永京子
設計協力 加納賢太・北野勝己

泊まれる学校

池上 明 エーアイ アーキテクト スタジオ



【改修前】オープン教室

【改修前】食堂



地元の活性化委員会より、2016年3月に廃校となった丹波篠山市立大芋小学校の1階の一部を簡易宿所に用途変更し、「泊まれる学校」をコンセプトに交流拠点として活用し地域を活性化させるプロジェクトのご相談をいただいた。

運動場も使えるのでスポーツ合宿も含め幅広い利用を想定している。

オープン教室を移動式間仕切で仕切り宿泊室（大部屋）を設置し、生活科室を浴室・脱衣室にリノベーションした。

食堂・トイレも宿泊者が利用しやすいように改修し、バリアフリーにも配慮した。

建物自体は2001年に竣工しており耐震上の問題はなかったが、用途変更に伴い防煙区画や異種用途区画、誘導灯の設置など防災面の十分な対応が必要となった。小学校のイメージが残るよう、できるだけ現状をいかにしながら改修工事を行った。

大きな黒板のある宿泊室はお客様に大変好評のようである。

(池上 明)

泊まれる学校 おくも村

所 在 地	丹波篠山市中500
施 工	中山工務店
用 途 変 更 面 積	616.85㎡
構 造 規 模	RC造、地上3階
完 成	2019年11月
U R L	okumomura.com

静謐な空間・住まい

岸 一 アトリエJIGSAW



計画地は道路から3m程高くなっているため、見晴らしが良いうえに、隣地の道路境界部にある大きな桜の木を望むことができる、とても環境が良い場所であった。

ただ、前面道路の交通量が多く、通行人からの視線を遮る物もないため、見晴らしの良さを活かしながらも周りの視線を気にせずに生活することができる、静かで落ち着いた住まいが求められた。

計画をするにあたっては、敷地と周囲の環境と関係性について考察し、建物の配置や壁と塀の高さ、また開口の向きと大きさなどに対して、多くの検討を重ねた。

居室窓から見える景色や樹木の緑、部屋に差し込む光が室内を構成する素材や家具、ファブリックなどと相まって、穏やかで静謐な空間を生み出している。

様々な要素が織り成す空間で過ごすことで、日々の忙しさからも解放され、心から癒される住まいが実現した。

(岸 一)

S 邸

所在地	福島県郡山市
施工	陰山建設
建築面積	174.11㎡
延床面積	245.95㎡
構造規模	RC造、地上2階
竣工	2019年5月
撮影	伊藤秀樹

隙間で見つける家族の居場所

平岡翔太



敷地は幹線道路から1本入った住宅地の一角でもともと大きな邸宅が建っていた敷地を3分割して分譲していた。間口6m奥行き17mの短冊状の区画、こぢんまりとした平凡な敷地だが南側の主要道路に加え北側にも細い道路があり双方に開放的で明るい印象だった。南北の道路側に居室を配置したツインタワー方式とし、その“隙間”をスケルトン階段でつないだ3層スキップフロアとすることで立体的に拡がりのある空間とした。LDKや書斎、子ども書斎は間仕切りを設けず、高低差や奥行で生まれる距離感により家族が場を共有しながらも公私の居場所が見つけられる。“隙間”は南北の開口部から入ってくる風の通り道となりハイサイドライトに向かって気持ちの良い風を建物全体に循環させる。

(平岡翔太)

H 邸

所在地	大阪府堺市
施工	タカオチ工務店
建築面積	46.19㎡
延床面積	111.19㎡
構造規模	W造、地上2階・地下1階
竣工	2020年4月
撮影	エスエス大阪支店

生きられる舞台 —光・風景・家族に出会うすまい—

三谷 帯介



内部空間を巡る過程で、家族の気配が様々な場所から感じられる。



上：浮遊感のある2階。吹抜に面して書斎がある。
中：吹抜の窓が「自分だけの空」を切り取る。
下：植栽の影がファサードに表情を加える。

六甲山麓に建つ住宅。周辺は邸宅の広い敷地が細長く分割され画一的な住宅に建て替わりつつある、阪神間住宅地の典型的な状況にある。北西接道で三方を住宅に囲われている環境から、プライバシーや卓越感を鑑みて開口部を限定し、中央の吹抜を通じて光を採り入れる構成とした。

山あいを巡るように多様なスケールの空間に触れながら、吹抜の大きな窓から刻々と移ろう光や空の表情を感じられる。その先に辿り着く2階個室ボリュームの窓からはそれぞれ六甲山や市街を望み、心地よい風が全体を抜けていく。

周辺の状況とは緩やかに一線を画し、ここで過ごす日々の中で家族の気配と成長・この地の自然を感じさせてくれる舞台のような家を企画した。

(三谷 帯介)

逆瀬川の家

所在地	兵庫県宝塚市 ウッドワン関西
建築面積	66.88㎡
延床面積	110.78㎡
構造規模	W造、地上2階
竣工	2019年10月
撮影	平野和司

前山に伝える大屋根の家

新居照和 & ヴァサンティ 新居建築研究所



毎日のストレスや忙しさから心身が回復できるように自然素材をふんだんに生かし、健康的な暮らしができる二世帯住宅を建築主は望まれた。住宅団地の南側にある小高い山の緑に应答するように、自然乾燥させた地場杉で架構を組み、様々な居場所を生む内部空間をつくる。それぞれのライフスタイルと価値観をもつ二世帯がともに楽しく暮らしていく住まいとして、各居場所は適度な距離感を保ち、外部環境と関係性をもつ多様な暮らし領域を確保する。

玄関、水周りと洗濯干し場空間など、サービス空間を家の中心に配置し、前面道路に近い西側に父親生活ゾーン、その反対の東側に家族の団楽と食空間ゾーン、二階は夫婦世帯ゾーンを配置する。黒い外壁で緑の前山の存在を生かし、住宅団地の様々な色を抑制した。

家の前面中心に置いた洗濯室は、冬季は蓄熱する土間コンクリートで暖気をつくり、夏季はルーバー窓で、卓越風を常時室内に取り込むように工夫する。三角形に組み上げた架構を生かし、居室は家族の気配を感じ、住居内で空気循環ができる工夫を施す。太陽が東から西に動く内部空気温度変化が三角屋根空間によって空気循環を作り、心地よい空気環境を期待する。

(新居照和)

大屋根の家

所在地	徳島市
施工	株式会社アズマ建設
建築面積	108.6㎡
延床面積	158.6㎡
構造規模	W造、地上2階
竣工	2017年3月
撮影	北田英治

社会実験まちなか
オープンテラス

～浜松市の新しい生活様式への
対応と公共空間の利活用～

鳥居政也

近松市産業部産業振興課主任

はじめに

浜松市は平成26年度からまちなかの空き物件や使われていない公共空間を対象に、遊休不動産利活用促進事業「リノベーションまちづくり」に取り組んでいる。

リノベーションまちづくりとは、遊休不動産をリノベーションの手法を用いて再生することによって、産業振興、雇用創出、コミュニティ再生、エリア価値向上などを図る取り組みである。今あるものを新しい使い方をし、新たな価値を創り出し、エリアを変えていく。視点を变えることで、価値がないと思っていたものを、「価値のあるもの」「可能性のあるもの」と捉えなおし、うまく利活用することでスピーディーに新しい事業が展開できる。

まちなかオープンテラス

世界中で感染が拡大している新型コロナウイルス。浜松市でもその傾向は変わらない。3密回避が求められる中、特にまちなかの店舗は来客数の減少が顕著にみられ、政府から緊急事態宣言が発令されて以降、閉店を余儀

なくされる店舗が増加した。このような状況下で、感染症の拡大を防止しつつ経済回復を実現することが求められ、そのための施策の検討が行われた。

本市ではこのような状況に対応するため、まちなかの店先の道路空間を活用する施策「まちなかオープンテラス」を社会実験として実施することとした。店先の道路という日ごろ事業を行っている場所の延長線上を利活用することで、3密回避を図るとともに、にぎわいを創出した。

なお、道路空間を利活用するには、道路管理者から「道路占用許可」を受け、警察から「道路使用許可」を受ける必要がある。

道路管理者は道路の種類によって、市・県・国に分かれているが、まちなかの道路はすべて本市で管理していることから、道路関係部局とプロジェクトチーム（PT）を作り、実施に向けた検討を進めてきた。

PTでは、他都市で行われた事例やメンバーの専門知識をもとに、歩行者が歩く空間をどれだけ確保するか、歩行者の安全確保のための手段などを検討し、実施できる路線を絞り込んでいった。また、実施スキームについては、いかに参加店舗の負担を減らすかを念頭に検討を行った結果、本課が事業主体となり、警察や道路管理者への許可申請を行うとともに、実際に利活用する店舗からの申込や承諾という事務作業やトラブルへの対応などを行う体制とした。

PTでの協議を行った後、現地調査を行い実施路線を決定した。しかし、道路上に電気設備や植栽帯があったりして、想定通りにいかないこともあったが、作成した実施案で警察と協議した。道路を活用すること自体は珍しくないが、長期間かつ日常的に活用する事業は全国的にも多くはない。警察も前向きに検討していただき、概ねの了承を得ること

ができた。関係機関との協議が進み、制度の概要が固まったところで、参加店舗の募集を行った。

商店会などへの説明はPTメンバーが2～3人で1組になって、対象路線にある店舗を1軒1軒回り、事業の意義や内容を説明して参加を打診した結果、昨年6月19日に23店の参加を得て「まちなかオープンテラス」がスタートした。日中は梅雨空だったが、各店舗がそれぞれ工夫を凝らして道路を利活用した。5月22日のPT立ち上げから1ヶ月弱でスタートを切ることができ、目標にしていた「スピーディーな対応」ができた。

この取り組みは国土交通省の「新型コロナウイルス感染症の影響に対応するための沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用の取扱いについて」の通知より先んじて行われたこともあり、マスコミ等からも注目を得て、広く報道された。その反響として、当初参加を見送っていた店舗や対象路線から外れていた路線の店舗からも参加申込があった。申込のあった路線を調査し、可能なところは対象路線に加え、現在では37店舗が参加している。

当初は8月31日までの期間で実施する予定だったが、参加店舗から好評を得ていることや、歩行者の安全確保も問題なく行われていることから、今年の3月末まで延長することとした。



店舗と道路の一体的利用

今後に向けて

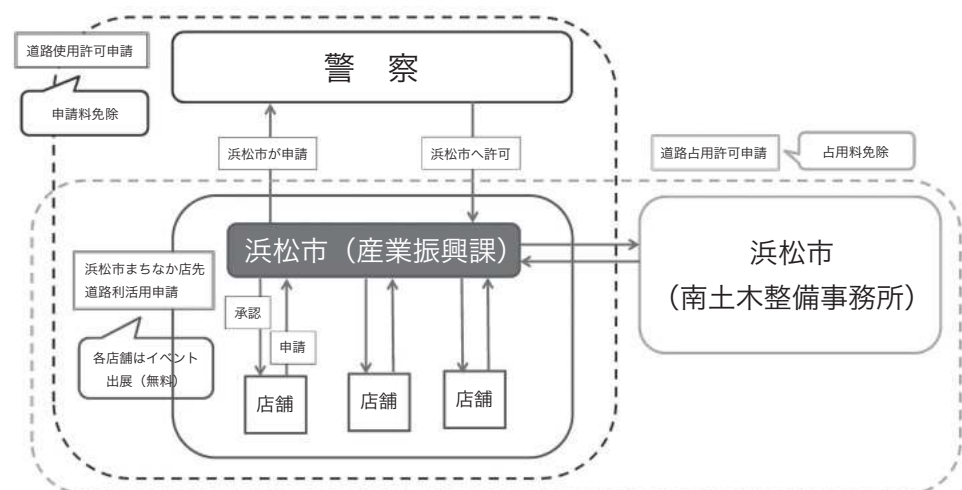
「まちなかオープンテラス」に参加した店舗からは、3密回避やにぎわい回復の効果が
あり、次回実施する場合も参加したいとの回
答が寄せられており、一定の成果はあった。
ただ、天候不順やクラスター発生などの影響
があり、市民の方に十分利用されたとは言え
ない状況である。

今後は市民の方に実際に「まちなかオープンテラス」を利用してもらえるような仕掛けを検討していく必要があると考えている。

(とりい まさなり)

●鳥居政也

平成11年度入庁。



浜松市まちなか道路空間利活用 スキーム図

大阪府立青少年 海洋センター

基本構想：楨総合計画事務所
設計・監理：大阪府建築部営繕計
画課・工事課
坂倉建築研究所大阪
事務所
施工：海原・鉄建建設共同企業体

(1975年11月号)

福原和則

大阪工業大学
ロボティクス&デザイン工学部
空間デザイン学科 教授

延床面積 10,794.94㎡
構造階数 RC 6 階（宿泊棟）S 4 階（研修棟）
竣工 1975年 5 月

■まえがき

泉南郡岬町淡輪の沿岸部にたたずむ1975年に竣工したこの建築は、ボート、ヨット、カヌーなどの海洋スポーツを体験することができる施設として建設当初から現在に至るまで多くの利用者に親しまれている。年間利用者数は6万から6万5千人。当初は勤労学生を含む青少年のために海洋実習を中心とするレクリエーション施設としてつくられた。現在も学校における利用が多く学年ごとに団体で大型バスを連ねて来ることが多い。施設のキャパシティは設計当時の平均的な1学年の児童数である300人で想定された。一方で、現在ではシニア向けのヨット教室が開催されたり、企業研修で利用されるなど幅広く人々に利用されるようになってきた。

海辺に建つこの建築の背後には樹木を備えた小山が迫る。地図では淡輪遊園と記される丘陵は古くから行楽地になっていて、料理旅館や企業の研修所が今も残る。その頂部にはキリスト教の教会堂が海を見下ろしている絵のような風景がある。敷地の和歌山側にはヨットハーバーが隣接し、大阪市側には箱作まで延々と続く白砂の砂浜を望むこの立地は、大阪府内とは思えない別世界だと言っても過言ではないものである。空は広く、水は青く、流れる時間もゆったりしている。

最寄りの南海電鉄淡輪駅は近代建築の香りがするひなびた駅舎で、テラゾー造の改札

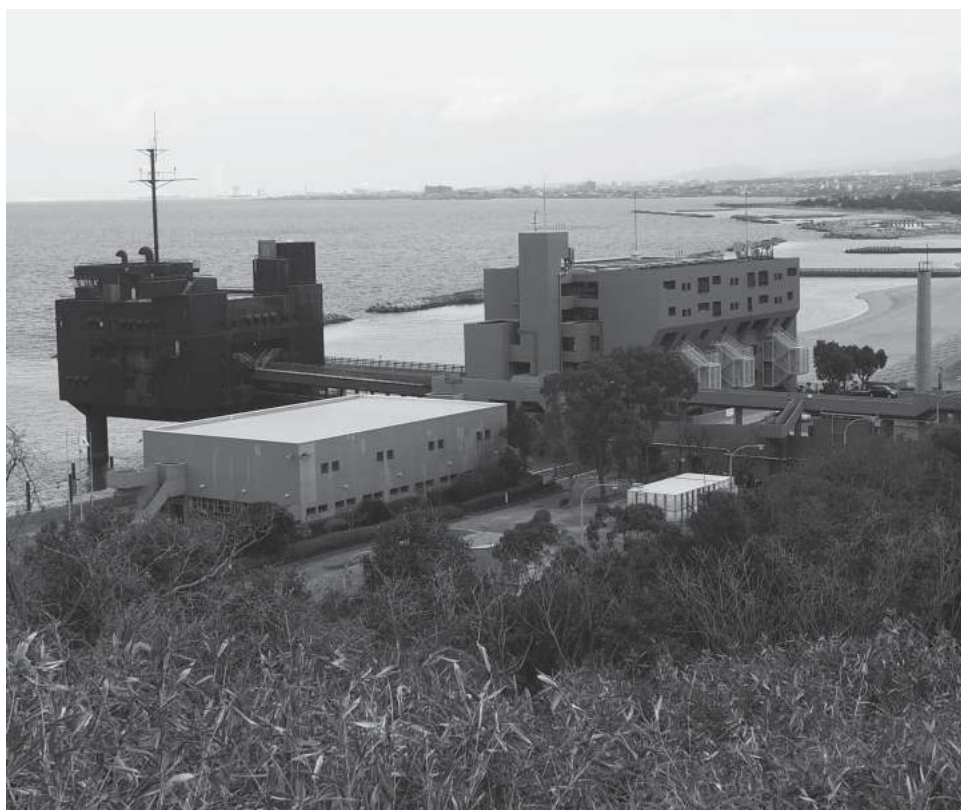
ブースと愛らしい外観が特徴的だ。そこから地元の住宅街を抜け、樹々の合間の遊歩道を通って海岸に向かうと敷地を含む公園エリアに到達する。海岸線に至ると海が視界に開け、青少年海洋センターの特徴的な外観が目飛び込んでくる。海上の要塞のような姿でコルテン鋼を纏う濃褐色の研修棟と上部に行くほどに迫り出した逆三角形の赤土色の宿泊棟の対比が印象的だ。造形の豊かさが海洋スポーツへの興味を掻き立てる。

1975年11月号に掲載された当建築は、当時の誌面を見ても異彩を放つ存在だ。船をモチーフとする直接的な建築表現は、建築における時代の主流であることを放棄する行為のようにも思えるが、それよりも如何に豊かな体験の場を提供するかに留意して設計されたのではないだろうか。現地を見ると設計者が卒業設計に取り組む学生のような気持ちで楽しんで設計したことを想像する。利用する子供たちの笑顔を想像しながら設計者もワクワクしながら設計したからこそ実現したのではないかと思わせる魅力にあふれている。

今回の記事は、施主であり管理部署である大阪府青少年・地域安全室、公共建築の発注を取り仕切る大阪府公共建築室ならびに現在の指定管理者のご協力により現地調査、図面調査ならびにインタビューを実施して得た知見を、竣工当時に紹介された記事等の内容をふまえて紹介するものである。



研修棟と宿泊棟を望む
（「建築と社会」1975年11月号より）



現在の外観



上層2層に客室を配した宿泊棟



宿泊棟から研修棟を望む



船のデッキを模した配置の先端がスタッフケビン、甲板のような広場の左は体育館、後方に艇庫が見える

■沿革

当建築は、1975年に竣工したが整備計画が大阪府から発表されたのは1969年であった。その頃大阪府の北部には既に能勢町の野外活動センターがあり、東洋一のキャンプ場と言われていて、その「山の施設」に対する「海の施設」として計画された。社会がまだ十分に豊かではない時代に教育施設ではなく青少年健全育成施設として計画された勤労学生を含む青少年を対象とした海洋性レクリエーションで余暇を楽しむことを目標とする大阪府独自の施設であった。淡輪が選ばれた理由は、その立地と環境による。昭和40年代になると泉大津から岸和田ぐらいまでのエリアでは既に埋立や護岸工事が進み水質の点においても泉佐野以南に絞られ淡輪が選ばれた。漁港をヨットハーバーとし、地磯に護岸を施して砂浜を造成した。そのエリア全体が里海公園として都市公園法に基づいて整備され、より広い年代を対象とするために海水浴場も設けられた。そのなかで青少年海洋センターは、公園施設として建設された。

■基本計画から設計へ

基本計画は横総合計画事務所が担当した。その基本計画書（1969年）が青少年課に残されている。そこには、淡輪漁港を改造したヨットハーバーから砂浜までを含むマスタープランと建築パースが含まれている。マスタープランはA、Bの2案があり、それぞれ顕著な特徴があつて興味深い。A案は海上に施設建築を配置した案で陸からブリッジで施設にアクセスするようになっている。ユニット化された部分が脱着可能な姿をしていて、当時の建築家が発表したメタボリズムの思想による建築を彷彿とさせる作風である。B案は背後にある丘陵地の頂上に海に向かって迫り出すように宿泊棟を配置したもので、海風を受ける帆や波しぶきを想起させるデザインである。海上と山上という2極の案が提示された。

その翌年より坂倉建築研究所による基本設計、実施設計が行われ、1973年12月に着工、1975年5月に竣工した。基本設計は2度変更となり3度目の案による着工であった。

基本計画2案のうち、実施案に近いのは、海上に建設するA案である。しかし、海上は、展示、研修機能のみであり、すべての機能を海上に配置したA案とは異なっている。

基本設計のいきさつについて当時の新建築の誌上で、同研究所の太田隆信は当初は海上構築物として実際の船を利用する案があったが最終的には取りやめとなったこと、更には同建築のモチーフとして船と港がデザインの基調になったことを述べている。

■全体構成

施設は主に①研修や集会を行う海上の研修棟、②宿泊室、食堂、浴室、事務室を含む宿泊棟、③体育館、④海上の活動を支援、監視するスタッフケビン⑤ヨットやカヌーを収納する艇庫からなる。海岸線に沿って②宿泊棟、③体育館④スタッフケビンが1列に並び、その全体が1隻の船を模した形となっている。スタッフケビンを舳先とし、マストを模したポールを持つ広場が甲板、体育館と宿泊棟が船室になぞらえられる。宿泊棟は上階に行くにしたがってオーバーハングして船体のフォルムを形成する。

一方、海上に張り出した研修棟は、②③④で形成する「沿岸に平行な軸」に直交する「山から海へと向かう軸」上に位置する海上に設けられた。山上から研修棟に至るアプローチがベデストリアンデッキとして設えられ、デッキのスラブは、その下階の道路からエントランスに至る通路の庇も兼ねていて、主たるアクセス動線もこの軸と一致する。

艇庫は、敷地の高低差を利用して道路の下部に半地下のかたちで配置され、前面の広場を経由して直接海岸のスロープに接続する。

■館内のアクティビティ

宿泊棟は、4階がロビーおよび集会室、5階と6階が客室となっている。客室は階段ごとに3室単位のクラスターを形成して、海側に3クラスター、山側に3クラスターが配置

される。廊下を介した水平移動と階段による垂直移動が可能であるが、他のクラスターへの移動は、基本的には3階のロビー階を経由する。客室は船室を模し、廊下も船内のような気分にさせる演出となっている。

クラスター内外の交流は、利用する青少年にとって楽しい仲間意識を助長すると思われる。海側のクラスターの折り返し階段と山側のクラスターの折り返し階段は背中合わせに配置され、それぞれの踊り場から中間階に配置された共同の水回り施設に接続するようになっている。つまり、水回り施設は、海側のクラスターと山側のクラスターが共用する形になっていて、そこを介して行き来することが可能となっている。このような迷路性もまた、船内気分を盛り上げる演出として仕込まれた工夫であると考えられる。

研修棟は2階レベルで室内デッキによって宿泊棟と接続している。中央の吹抜けにある階段状の舞台と客席を囲んで研修室が配置される。三方の開口部からヴィスタが広がる配置だが、特に沖側は全面的に解放されて、大海を望む展示室ロビーが展開される。

体育館は、雨天時等の室内活動に対応する。シンプルであるが十分な広さと大きさを備えている。体育館とスタッフケビンの間にある広場は、船のデッキに見立てられている場所で、マストを模したポールの前で集会を行えるようになっている。スタッフケビンの先に

艇庫とスロープがあり、広場で集まった後に海上活動へと向かう青少年を見守ることが容易な位置関係になっている。

■各棟をつなぐ「つなぎの場」

各棟をつなぐ外部空間に特徴を見出せる。顕著なのは、宿泊棟を含む「沿岸に平行な軸」と研修棟を含む「山から海へと向かう軸」の交点付近である。事務室の玄関に向かう2階のアプローチに注目したい。上空のデッキを庇としながら海の方へ接近し、最後は90度右折してエントランスに到達する。その屈曲点は広場となっていて、ちょっとした溜りをつくっている。また、玄関扉の手前も同じく前庭となっていて、現在ちょっとした展示物が置かれている。また、アプローチの途中にある階段から1階に降りるとオブジェのある広場があり、海側の階段を数段上がると次の広場が展開して、2階レベルにつながる構成である。通路から次の広場への見えがかりは、動線を誘うシークエンスが仕込まれている。通路も単なる通路とせず適度な位置に溜りを設け、施設の随所で交流を誘発することが想定されている。

実際に交流は起こるかどうかは別にしても、それらの工夫が外構デザインにメリハリを与えていて快適さとリズムを作っていることを特筆したい。押しつけがましくない自然なデザインであるところに秀逸さが現われているのではないだろうか。



後方の丘から研修棟に延びるデッキと船体を模した宿泊棟・体育館・スタッフケビンの結節点に心地よい広場状の溜まりの場が連続する

■外観計画

海上の要塞のような姿でコールテン鋼を纏う濃褐色の研修棟と上部に行くほどに迫り出した逆三角形の赤土色の宿泊棟の対比が目を引き外観である。設計の項で述べたが、船と港をデザインの基調にして坂倉建築研究所によってデザインされた。一方、基本計画を手掛けた建築家横文彦が提示した基本計画A案のパスは、明らかにメタボリズムを意識したものであったと言える。

それに対して坂倉建築研究所が行ったのは船と港を基調としたデザインである。雰囲気は似ているが、メタボリズムへの共鳴は確認できない。メタボリズムの建築は新陳代謝が行える可変性を備えたものである。ユニット単位の着脱や移動が想定され、そのことから車輻デザインや船舶、宇宙船の類との共通点を内包している。海上に4本足で浮かぶ要塞のような姿や建設された時代がメタボリズムを想起させるが、設計者は一言もそのようなことは述べていない。

それにしても、研修棟の姿は単純に船舶を基調にしたものとも言い難い。4.5ミリ厚の対候性高張力鋼板全溶接仕上げの外装が、海上に持ち上げられた姿は異を放つ存在であることに違いはない。

実は海側にはクレーンが備えられている。当初はそこに船舶が常時揚重され、緊急時の避難を担っていたのである。その効果に賛否はあろうかと思うが、実に面白いアイデアで

ある。近年、海上の埠頭に直接降りる階段が新設されて役目を終えたが、それまでは現役であった。そこに設えられた可動性は、この建築に動きを与え、その魅力を高めていたように思えてならない。

この特徴的な研修棟と対峙する宿泊棟もまた普通では許されない運命だったのではないだろうか。上部に迫り出した外観と露出した鉄骨階段がダイナミクスをつくり出して、バランスの良い全体像に寄与している。

■まとめ

青少年海洋センターは、必要最小限の補修が行われたことを除いて、ほとんど当初のまま使い続けられている。大阪府の資産整理の際も売却されることなく継続できた。海洋プログラムの実施に適した安全な海域を有していることや、大阪府の長年の実績が評価されたことだと推測する。また、建築そのものに力があり、当初の魅力を保ち続けていたこともひょっとしたら助けになったのではないだろうか。建築の力を感じさせる秀作として今後も大事にしていきたい。

半世紀近い時を経て、社会の変化を踏まえてこれからの使い方を検討する時期にきている。今後の保全や運用に注目したい。

(冒頭の写真以外は筆者撮影)

参考文献：

新建築 1976年1月号

大阪府青少年海洋活動施設基本構想 1969



客室



海洋アクティビティ



研修棟



山側から延びるペデストリアンデッキの先に研修棟が見える。右側は宿泊棟

「クリーンパーティション」 —様々な分野で活用可能 な超薄型空気清浄機

平松和也

日本エアーテック株式会社 研究開発部

はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行を受け、医療機関における感染対策は非常に重要な課題となっている。この様な中でHEPA（High Efficiency Particulate Air）フィルタ付きパーティションが注目されている。本装置はHEPAフィルタと独自開発の送風機を備えた薄型パーティション構造の空気清浄機である。クリーンパーティション（図1）は4種類の気流方式があり、大きな吹出（吸込）面を備え、低騒音のため様々な用途の活用が可能な装置である。



図1 クリーンパーティション

システム概要

クリーンパーティションのシステム概要を以下に述べる。送風機によりクリーンパーティション内部へ汚染空気を導入し、塵埃を99.99%以上の効率で捕集するHEPAフィルタにて濾過することで清浄空気を供給する。ウイルスは飛沫や塵埃に付着した状態で空気中に存在するため、フィルタにて捕集・除去が可能である。本システムは近年一般的となったHEPAフィルタを内蔵する家庭用空気清浄機と同様であるが、クリーンパーティションはフィルタの取り付け方法が異なる。図2にクリーンパーティションと家庭用空気清浄機のフィルタ取付け部周囲の構造図を示す。家庭用空気清浄機ではメンテナンスを簡便とするため、図2の左側のように固定部の気密性能が完全ではなくフィルタを通過しないバイ

パスリーク気流が5～20%程度発生する。このため装置としての塵埃捕集効率はフィルタの単体捕集効率と比較すると低下する。一方、クリーンパーティションでは図2の右側に示すように処理する空気の全てがフィルタを通過するように設計されており、また完成検査時に全数に対してフィルタすべりを走査するリークテストを実施する事で捕集性能を保証している。このため、短時間で室内塵埃濃度を低下させる効果があり、感染症対策により高い効果が期待できる。

フィルタを交換する際は感染対策のため、個人用保護具を着用し、アルコール等適切な消毒剤を全体に噴霧してフィルタを消毒した上で交換することを推奨する。

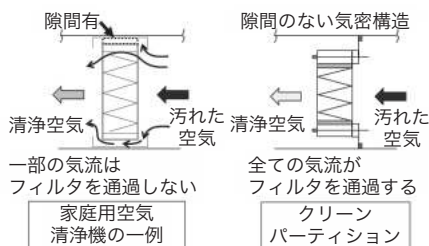


図2 HEPAフィルタ周囲の構造

製品の種類

クリーンパーティションは用途に合わせて「クリーン仕様」と「汚染除去仕様」の2種類を用意している。

・クリーン仕様

装置前面より均一に清浄空気を供給する仕様である。簡易的なクリーン空間を構築したり、室内浄化能力の高い空気清浄機として活用することができる。

・汚染除去仕様

装置前面より室内の空気を取り込み、HEPAフィルタにて濾過した後に排気口から清浄空気を排気する仕様である。医療機関の待合室等で椅子の後方に設置することにより飛沫拡散を抑止することに加え室内の空気清浄を行うことができる。

クリーンパーティションによる 感染症対策

感染症対策機器としてクリーンパーティションを使用する場合、弊社ではクリーン仕様と汚染除去仕様を組み合わせたプッシュプル気流方式を推奨している（図3）。気流上流側のクリーン仕様の前に医療従事者、下流側の汚染除去仕様の前に患者が位置することで、以下の効果が期待できる。

- ①診察を行う医療従事者の感染リスク低減
- ②室内へのウイルス拡散防止
- ③室内のウイルスの迅速な浄化

弊社社内での菌を用いた模擬実験ではク

リーンパーティションを用いることにより、医療従事者へ到達する菌が大幅に低減できることが分かっている。

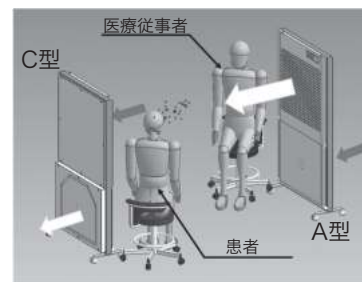


図3 クリーンパーティション推奨レイアウト

応用例

クリーンパーティション応用の一例として診察・検体採取ブース（図4）を紹介する。本ブースはPCR検査時に被検査者の飛沫による医療従事者の感染防止を目的とした装置である。医療従事者はクリーン仕様を設置した陽圧室、被検査者は汚染除去仕様を設置した陰圧室に入り、医療従事者は中央部に設けたグローブを介して検体の採取を行う。中央の間仕切りにより、被検査者からの飛沫が医療従事者へ到達することを防止する。陰圧室内で拡散したウイルスは汚染除去仕様のクリーンパーティションにて迅速に除去することで、ブース外への拡散を防止することができる。被検査者が入れ替わる際は間仕切りに付着した飛沫を次亜塩素酸ナトリウム液を用いて清掃することで接触感染を防止することができる。

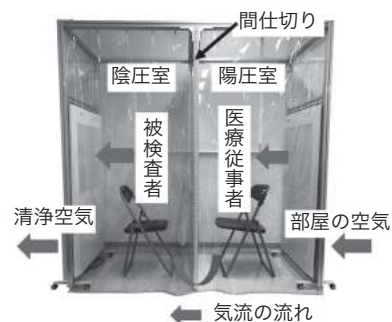


図4 診察・検体採取ブース

おわりに

今後、有効なワクチンが開発される事により、COVID-19が収束していくことを期待するが、人類と感染症との闘いは終わることはないであろう。医療従事者の方々の感染への不安を少しでも緩和するため、今後もクリーンパーティションを活用した感染症対策の提案を行っていく。

（ひらまつ かずや）

●平松和也

2015年4月日本エアーテック株式会社入社。
2020年12月現在、研究開発部主任。

東日本大震災 被災地における 高齢者の孤立化 防止に関する研究

～防災集団移転地を 事例として～

香川大学創造工学部 准教授

中島美登子

1973年、佐賀市生まれ。1996年大分大学工学部建設工学科卒業。同大学院博士前期課程修了。京都大学大学院博士後期課程単位取得退学。有明工業高等専門学校助教・講師、香川大学助教・講師を経て2020年より准教授。建築計画学。2008年日本建築学会奨励賞受賞。著書、中島美登子共著「地域生活支援とグループホーム—精神障害者グループホーム運営ハンドブック—」（中央法規出版、2005）

■はじめに

「建築と社会を考える」というテーマに関して、本稿では被災地の住環境について考えてみたい。被災地における住環境の問題は、「住まう」という行為を社会全体としてどのように考えるのかという問題でもある。とりわけ高齢者や障がい者などの災害弱者の人々の被災後の住環境をどのように整えるかということは建築にとって重要な課題と考えられる。

阪神大震災や東日本大震災の被災地においては、仮設住宅や災害公営住宅における高齢者の孤独死が報じられ、復興過程における高齢者の孤立化が深刻な問題となった。そこで、以下では災害弱者の住環境の問題として、復興過程における高齢者の孤立化の問題を取り上げて具体的に検討してみたい。

これまでの研究においては主に仮設住宅や災害公営住宅に関して高齢者の孤立化の問題が検討されてきた。そこでは仮設住宅や災害公営住宅における高齢者の社会的孤立化や孤独死と仮設住宅からの移転にともなう居住環境の変化との関連性が明らかにされ、震災からの復興過程におけるコミュニティの維持・形成の必要性が指摘されてきた。

一方、仮設住宅後のもう一つの住まいである防災集団移転地については、被災集落の住民がある程度まとまって移転することを前提としていることから、コミュニティの喪失や崩壊にともなう高齢者の孤立化はあまり想定されてこなかった。しかし、防災集団移転事業の実態は地域的に多様であり、必ずしもすべてが集落でまとまって移転しているわけではない。言い換えれば、防災集団移転地においても移転プロセスや住民意向の違い等の諸条件によって近隣関係やコミュニティの維持・形成の状況には大きな違いがあること、そしてそれらが十分に機能していない場合には、仮設住宅や災害公営住宅と同様に高齢者の孤立化の危険がともなうことが推察される。

これらをふまえて、本稿では東日本大震災の被災地の一つである岩手県大船渡市の防災集団移転地について、仮設住宅から防災集団移転地への移転が高齢者の交流関係や生活状況にどのような影響を与えたのか、高齢者の孤立化を防ぐためにどのような支援が求められているのかについて検討したい。

■研究方法

本研究ではJ、Kの2つの防災集団移転地（以下、J高台、K高台）を調査対象とする（表1、図1）。元の地区に近接し、元のコミュニティもまとまって移転したことから地域コミュニティの継続性が高いK高台と、元の地区とは離れてしまい、出身地区が異なる住民が混在しているJ高台を対象として取り上げて、仮設住宅から防災集団移転地への移転の際のコミュニティの継続性の違いが高齢者の交流関係にどのような影響を与えたのか、そして高齢者の孤立化を防ぐためにどのような支援が求められているのかを明らかにする。J高台とK高台はどちらも同市内のR地区に位置し、津波により被災した元のA、B、C、D、E集落の住民が集団移転したものである。J高台の戸数は23戸、K高台は12戸で、どちらも震災から4年後の2015年2月及び3月に入居を開始した。

しかしながら、この2つの防災集団移転地の特徴はK高台は全員が元のA集落の住民であるのに対し、J高台の住民はB、C、D、Eの4集落の住民によって構成されている。K高台はその造成地内に公民館が建設され、元のA

地区	R地区	
対象高台	J高台	K高台
世帯数	23戸	14戸
入居	2015年3月	2015年2月
公民館	なし	あり（高台住宅内）
自治会	なし	あり （以前の自治会を継続）
入居者の出身 集落別世帯数	B（8戸）、C（7戸）、 D（4戸）、E（4戸）	A（14戸）
現在のコミュニティの状態	仮設住宅からの知り合いはいるが、各戸の宅地を抽選で決めたため隣は知らない人も多く、隣近所での交流はあまりできていない。	仮設住宅からの知り合いが多く、近隣の住民同士での交流も活発である。
高齢者サポート拠点の利用	一部の住民の利用あり	なし

表1 J高台とK高台の概要

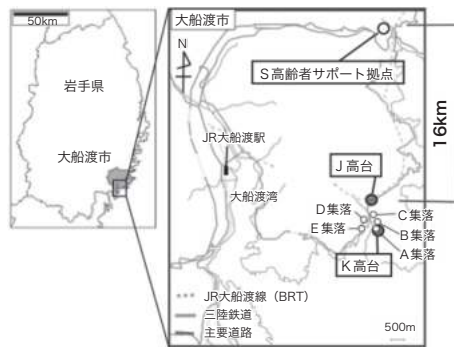


図1 J高台とK高台の位置

集落の自治会がそのまま継承されているのに対し、J高台は公民館も建設されておらず、自治会も組織されていない。コミュニティの交流状況については、K高台では仮設住宅からの知り合いが多く、近隣の住民同士の交流も活発であるのに対し、J高台では仮設住宅からの知り合いもいるが、お互いに知らない人も多く、隣近所での交流はあまりできていない。

また、J高台の高齢者の一部はJ高台から16kmほど離れたS地区に位置するS高齢者サポート拠点をしばしば利用しているが、K高台の高齢者は全く利用していない。高齢者サポート拠点とは、仮設住宅内の要介護高齢者や障がい者等の日常生活を支援するため総合相談やデイサービス、訪問サービス、生活支援サービス等を包括的に提供する施設であり、本来は仮設住宅に居住する高齢者の生活支援のために設置されたものだが、大船渡市では仮設住宅から公営住宅や防災集団移転地に移った後も元の高齢者サポート拠点を利用する高齢者が一部で見られる。

本研究ではこのようにコミュニティの状態が異なる2つの高台住宅を対象としてアンケート調査を行った。また、それぞれの高台住宅のアンケート調査でインタビュー調査の了承が得られたJ高台23戸のうち10人、K高台は12戸7人の17人にインタビュー調査を実施した。インタビュー項目は外出状況、人的交流、介護要望、高齢期における生活変化、集会所・談話室への要望等である。

■防災集団移転地における交流関係

J高台では男女ともに交流関係が「頻繁にある」および「少しある」の割合は半数にとどまったのに対し、K高台ではその割合は男性で67%、女性では100%に達した（図2）。

また、交流関係の具体的な内容を「近所での立ち話・行き来」の頻度を尋ねたところ（図3）、男女ともにJ高台において「ほとんどしない」の割合が25%程度みられ、近隣の交流関係はやはりK高台において活発であることがわかる。K台では子供世代と同居する高

齢者が8割以上を占めるのに対し、J高台は単身および夫婦のみの高齢者世帯が約半数を占める。家族の支援があまり期待できないJ高台において友人や近隣の交流関係が乏しいことは、孤立化の危険をさらに高めるおそれがあると言えよう。

■コミュニティ活動への参加状況

次にJ、K高台の住民のコミュニティ活動への参加状況を知るために、まず「現在、住民同士で集まっている場所はあるか」と尋ねたところ、K高台では高齢者も含めて8割近くの住民が集まる場を有しているのに対し、J高台は高齢者の3、4割ほどしか集まる場を有していない（図4）。さらにこれらの「集まる場」がどこなのかを具体的に尋ねたところ（図5）、K高台では大半の人が「地区公民館」をあげていた。前述のように、K高台には公民館が設置されており、ここが住民の集う場となっていることがわかる。また、K高台には公民館とは別に集会所も設置されてお

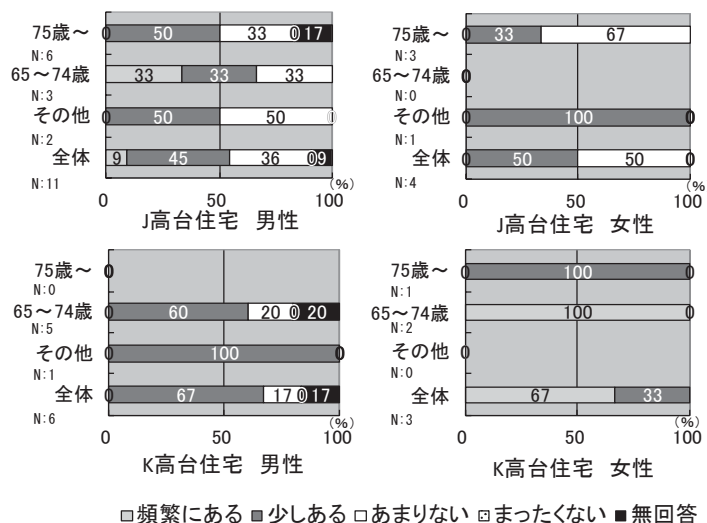


図2 高台内での交流関係の有無

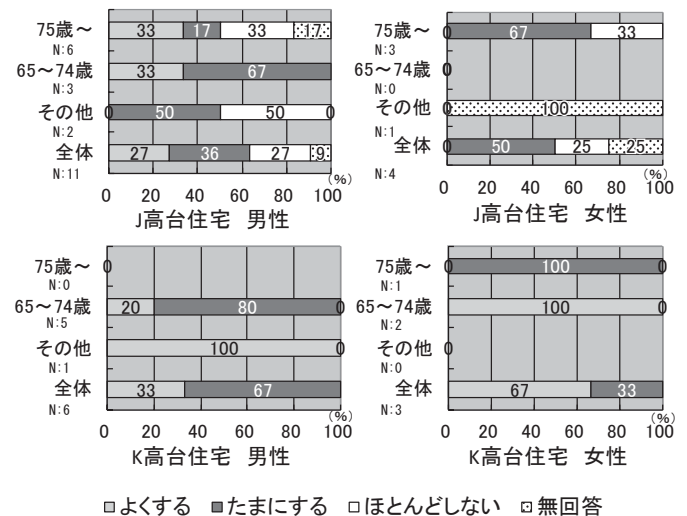


図3 高台内での交流の頻度（近所での立ち話・行き来）

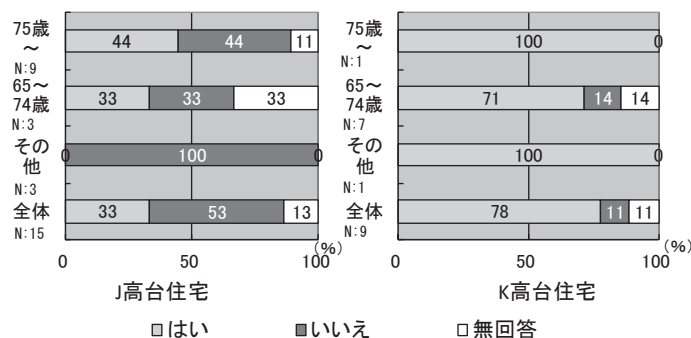


図4 現在、住民同士で集まっている場所はあるか

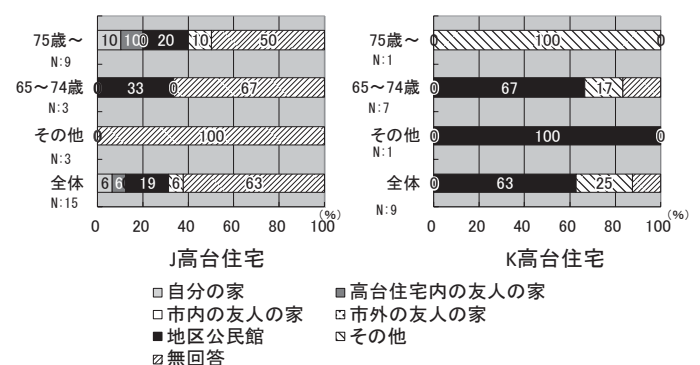
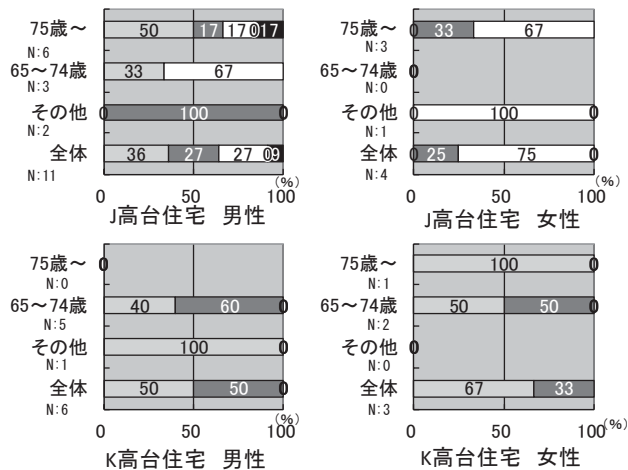


図5 集まっている場所はどこか



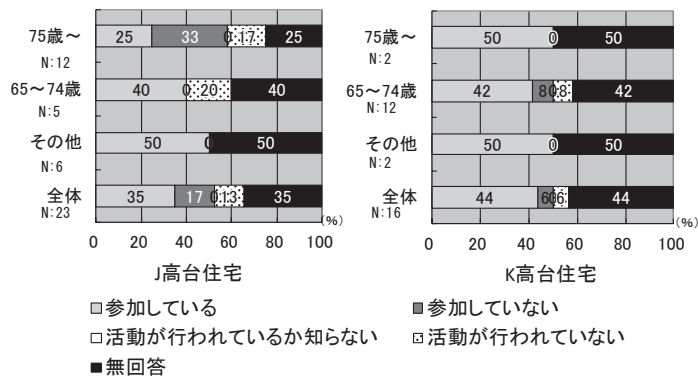
□暮らしやすい □暮らしにくい
■まあまあ暮らしやすい ■暮らしにくい
■無回答

図7 現在住んでいる高台は暮らしやすいか

- ・友人が近くにいない
- ・仮設住宅時代の友人が同じ高台住宅にいない
- ・日常のちょっとした手伝い（電球交換や荷下しなど）を頼める人がいない
- ・緊急時に助けを呼べる人がいない

（順不同、複数回答あり）

表2 どのような点で暮らしにくいと思うか



□参加している □活動が行われているか知らない ■参加していない □活動が行われていない
■無回答

図6 現在、自治会活動に参加しているか

- ・仲の良い友人宅と離れてしまう
- ・集会所や公民館がなく友人と気軽に話せない
- ・日常のちょっとした手伝いを頼める人がいない
- ・困ったときに助けてくれる人がいない
- ・緊急時に助けを呼べる人がいない
- ・体調を崩したときに隣人に頼ることができない
- ・住んだこともない土地に移り住むことになり孤独
- ・自治会活動にうまく参加できない

（順不同、複数回答あり）

表3 日常的な交流関係でどのような点が不満か

り（図5ではK高台の「その他」に該当する）、一部の後期高齢者は毎日のようにこの集会所に通っておしゃべりなどを行っている。一方、J高台には公民館は設置されていないが、図5を見るとJ高台の高齢者のうち20～30%の人が「地区公民館」を集まる場としてあげている。これはJ高台から坂道を下り徒歩30～40分（帰りは登りになるので徒歩1時間ほどかかる）ほどの所にあるM地区の公民館を指している。J高台は行政区としてはM地区に含まれるため、M地区の公民館は年に数回ほど敬老会などのイベントを行う際にJ高台の高齢者にも参加を呼びかけており、これにJ高台の高齢者が何人か参加している。しかしJ高台の住民はM地区の自治会には加入しておらず、公民館も日常的にJ高台の高齢者が集まる場となっているわけではない。

また、「現在、自治会活動に参加しているか」と尋ねたところ（図6）、K高台は高齢者も含めてほぼ半数の人々が何らかの活動に参加していることがわかる。一方、図6を見るとJ高台でも3割前後の住民が自治会活動に参加していることがわかるが、これは前述の

近隣M地区で行われるイベントにときおりJ高台の住民が参加するものであり、J高台で行われる地域活動ではない。このように、コミュニティ活動への参加状況をみても、さまざまな地域活動に活発に参加しているK高台の住民と、そのような地域活動が行われておらず、近隣の地区で行われている地域活動に部分的に参加するだけのJ高台の住民という対比がみられる。

■高台の生活への満足度と交流関係への不満

次に現在住んでいる高台での生活が暮らしやすいか、そうでなければどのような点に不満を感じているのかを尋ねてみた（図7）。K高台では高齢者も含めてすべての人が「暮らしやすい」「まあまあ暮らしやすい」と答えたのに対し、J高台におけるその割合は男性で63%、女性では25%にとどまる（図7）。高台での生活への満足度はJ高台においてかなり低いと言わざるを得ない。そこで、どのような点で「暮らしにくい」と感じるのか、「暮らしにくい」と回答した人々に具体的に上げて

もらったところ、表2に示されるように、ほとんどが友人の有無や人間関係に関するものであった。そこでさらに日常的な交流のどのような点に不満を感じるかを尋ねたところ、表3に示されるように移転により友人と離れてしまったことや、集会所や公民館などの交流スペースがないこと、日常的に頼れる人がいないことなどが特に高齢者を中心に多く挙げられた。このような交流関係に関する不安や不満は、公民館や集会所がなく、地域活動も乏しく、日常的な交流関係も希薄なJ高台の高齢者にとって深刻な問題となっていると思われる。

■高齢者サポート拠点および支援員の利用

前述のように、J高台の高齢者の一部はJ高台から16kmほど離れたS高齢者サポート拠点をしばしば利用しているが、これは防集事業でJ高台に移転する以前のR仮設住宅時代のつながりによるものである。Sサポート拠点のスタッフがR仮設住宅を定期的に訪問して、孤立しがちな高齢者や身体の不自由な高齢者、

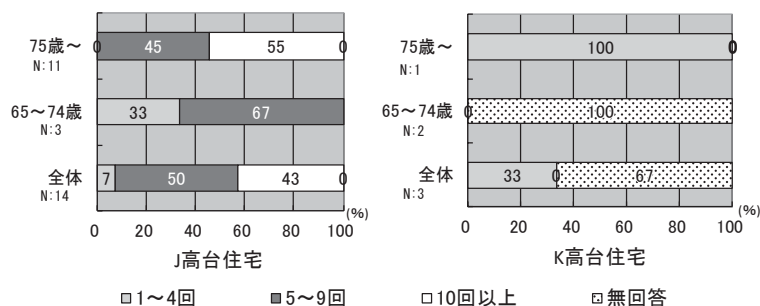


図8 高齢者サポート拠点の利用回数

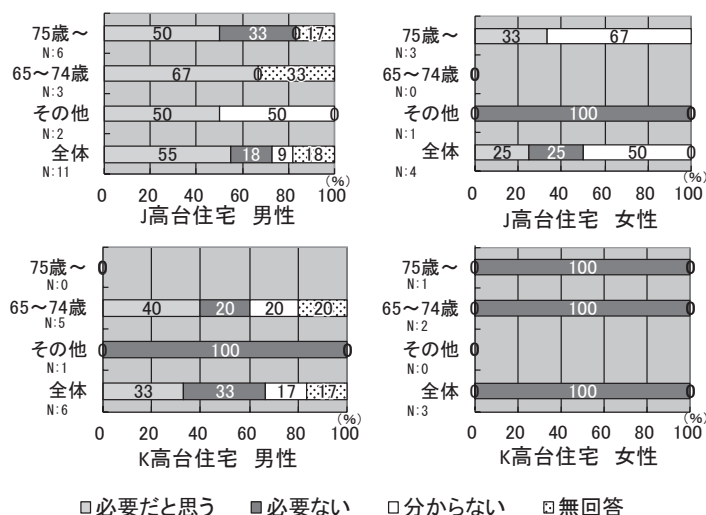


図9 支援員は必要だと思うか

認知症の高齢者等を戸別訪問して声かけを行ったり、Sサポート拠点で行われるイベントへの参加を呼びかけるなど、積極的に働きかけを行った結果、J高台に移転した後も何人かの高齢者は自分で車を運転したり、あるいは家族による送迎でSサポート拠点まで通っている事例が確認された。K高台の高齢者も、R仮設住宅に住んでいた時はJ高台の高齢者と同様にSサポート拠点のスタッフによる支援やサービスを利用していたが、K高台に移転した後は、K高台内での自治会活動やイベントに参加することが増え、次第にSサポート拠点を利用することはなくなっていった。

図8はJ、K高台の高齢者がこれまでにSサポート拠点を利用した回数を示したもののだが、K高台の高齢者は高台移転した最初の頃に数回利用した後は次第に利用しなくなったのに対し、J高台の高齢者は移転後も利用を継続し、後期高齢者の中には10回以上も継続的に利用している人々もいる。J高台の高齢者でSサポート拠点を利用している人々にサポート拠点が必要だと思う理由を尋ねたところ、「お

しゃべり相手が欲しい」、「相談相手が欲しい」、「(仮設住宅時代に利用した) 高齢者サポート拠点のサービスがよかったから」という回答が聞かれた。このように、地域活動や交流関係が希薄なJ高台に住んでいる高齢者にとって、高齢者サポート拠点は高台移転後も重要な役割を果たしていることがわかる。

続いて、R仮設住宅のときに主に高齢者が利用していた支援員制度について、J、K高台の住民にその必要性を尋ねてみたところ、やはり全体にJ高台の高齢者において「必要だと思う」と答える人が多く見られた(図9)。支援員制度はもともと仮設住宅のコミュニティ作りのお手伝いや、仮設住民の生活支援を目的に導入されたものであるが、孤立しがちな高齢者への声かけや、高齢者の日常生活のお手伝いを行うなど、仮設住宅の高齢者支援にかかせない役割を果たしている場合も多かった。仮設住宅の閉鎖後、支援員は「コミュニティサポーター」として、災害公営住宅を巡回してコミュニティづくりのお手伝いや生活支援を行うようになった。こうした支援を防

災集団移転地においても提供して欲しいという要望が、J高台の高齢者からは多く聞かれた。支援員に対して期待する役割をJ高台の高齢者に尋ねたところ、「相談に乗ってくれる」、「おしゃべり相手になってくれる」、「(自分たちのことを) 気にかけてくれる」など、前述の高齢者サポート拠点が必要だと思う理由と同様な回答が得られた。また、「イベントの情報を知らせてくれる」、「行政の情報や、やり取りの仕方を教えてくれる」、「困っていることを行政に伝えてくれる」など情報提供や行政と住民とのパイプ役としての役割を期待している意見も聞かれた。

■おわりに

本稿では、岩手県大船渡市の防災集団移転地を対象として、高齢者の交流状況や集まる場所の有無、コミュニティ活動への参加状況等を明らかにし、また高齢者自身がそうした状況をどのようにとらえ、どのようなニーズや希望を有しているのかを明らかにした。その結果、同じ防災集団移転地であっても、仮設住宅から防災集団移転地への移転の際のコミュニティの継続性の違いによって、その後の防災集団移転地における高齢者の交流状況や集まる場所、コミュニティ活動への参加状況には違いがあることが明らかとなった。また、とりわけコミュニティの継続性が低く、自前の公民館や集会所をもたないJ高台においては、仮設住宅の時代に利用していた高齢者サポート拠点や支援員制度の利用に対する一定のニーズが見られた。

このように、同じ防災集団移転地であっても、移転のプロセスやコミュニティの継続性の違いによって、高齢者の孤立化をめぐる状況には大きな違いがあり、場合によっては仮設住宅や災害公営住宅と同様に高齢者の孤立化が生じる可能性があることが推察される。そのため、高齢者の孤立化を防ぐためには、それぞれの防災集団移転地の状況に応じたきめ細やかな支援が必要であると考えられる。その一つとして、仮設住宅時代に整備された高齢者サポート拠点や支援員制度を、防災集団移転地の高齢者にも利用しやすくすることは一つの現実的な対応策だと考えられる。

(なかしま みとこ)

1

特別展「こわくて、たのしいスイスの絵本展 ～クライドルフ、フィッシャー、ホフマンの世界～」



フェリックス・ホフマン 絵本『おおかみと七ひきのこやぎ』より
小さな絵本美術館蔵 © フェリックス・ホフマン

スイスの文化が息づく絵本を紹介する展覧会が開催される。

エルンスト・クライドルフ（1863-1956）は、アルプスの草花を擬人化した『花のメルヘン』をはじめ、数々の絵本を手がけ、ヨーロッパにおける絵本画家の先駆けとなった。

ハンス・フィッシャー（1909-1958）は、勢いのある線を重ねて絵を描き、『ブレーメンの音楽隊』や、『こねこのぴっち』などを発表し、人気を博した。

フェリックス・ホフマン（1911-1975）が、わが子へ贈るために手作りした『おおかみと七ひきのこやぎ』は、日本でも愛される絵本となっている。また、『スイスの伝説』などユーモアあふれる挿絵も描いた。

草花や風俗、独自の伝説などを通じ、スイスらしさをそれぞれに表現した彼らが手がけた絵本や挿絵には、楽しそうに見えていてもじつはこわい場面や、こわそうに見えていても楽しい場面が描かれている。

長野県にある小さな絵本美術館協力のもと、原画やリトグラフをはじめ、手描き絵本も含めた約150点が観覧できる。

期 間 3月28日(日)まで

10:00～18:00

※入館は17:30まで

休 館 日 月曜日

会 場 神戸ファッション美術館
神戸市東灘区向洋町中2-9-1

TEL.078-858-0050

観 覧 料 一般1,000円、65歳以上・大学生500円

*高校生以下無料

*神戸市内在住の65歳以上の方は無料

*小学生以下は保護者（大学生以上）の同伴が必要

2

岩崎家のお雛さま



五世大木平藏「岩崎家雛人形」のうち内裏雛
昭和時代初期（20世紀）

3月3日は桃の節句。かわいらしい人形や小さな道具を飾り楽しむ「雛祭り」の風習は、江戸時代に広まり、現代まで連綿と続いている。

三菱第四代社長・岩崎小彌太（1879～1945）が孝子夫人（1888～1975）のために誂えた雛人形は、京都の人形司・丸平大木人形店によるものである。内裏雛は、白くつややかで丸い顔が愛らしい幼児の姿をしている。岩崎家の替紋である花菱文が各所にあしらわれた雛道具は精緻に作られ、段飾りに花を添えたことだろう。これら贅を尽くした岩崎家の雛人形・雛道具は当時の技術の粋を集めた、貴重な美術工芸品といえる。

このほか、本展では、春を愛でる絵画・工芸品も合わせて展示される。日本画家・前田青邨（1885～1977）に絵の手ほどきを受けた小彌太が描いた絵画や蒐集した名品、静嘉堂の庭園で花開く梅も楽しむことができる。

期 間 2月20日(土)～3月28日(日)

10:00～16:30

※入場は16:00まで

休 館 日 月曜日

会 場 静嘉堂文庫美術館

東京都世田谷区岡本2-23-1

TEL.050-5541-8600（ハローダイヤル）

観 覧 料 一般1,000円、高大生700円

*中学生以下無料

*障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は
700円

3

2021年コレクション展 I
特集「同級生・同窓生」



国枝金三《さくら》1934（昭和9）年
第21回二科展 兵庫県立美術館蔵

兵庫県立美術館では、作品の充実と、それらを積極的に紹介し変化ある常設展示室の演出を心がけるために、2019（令和元）年度より、1年を2回に分けて、それぞれ展示のテーマを設け、横断的にコレクションを紹介している。

2021（令和3）年第I期では、特集「同級生・同窓生」において、いわゆる官展や団体展に出品された作品を、それぞれの展覧会ごとにまとめて展示する。

また会期後半の小企画では、2019（令和元）年に兵庫県が受贈した重要文化財・重要美術品を含む旧・瀬川美術館のコレクションと篆刻家・梅舒適（1916～2008）が収集した中国近代書画・篆刻を核としたコレクションをお披露目する記念展を開催する。

期 間 ■2021年コレクション展 I
2月13日（土）～7月4日（日）
前期：2/13～4/18 後期：4/24～7/4
4/19～23は展示替えのため常設展示室を閉室
■特集「同級生・同窓生」
■小企画「瀬川コレクション・梅舒適コレクション
受贈記念展」（後期会期に開催）
春季展示：4/24～5/30
夏季展示：6/1～7/4
10：00～18：00（特別展開催中4/9～7/3の金・土曜日は20：00まで）
※入場は閉館の30分前まで
休 館 日 月曜日（ただし5/3は開館）、5/6
会 場 兵庫県立美術館
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1（HAT神戸内）
TEL.078-262-0901
観 覧 料 一般500円、大学生400円、70歳以上250円
*高校生以下無料
*障がい者手帳等をお持ちの方は100円、
その介助者1名は無料

4

特別展 日本の色
吉岡幸雄の仕事と蒐集



古代印度更紗（赤星家旧蔵）

本展覧会は、一昨年に急逝した染織史家・吉岡幸雄を追悼し、その業績を回顧する没後初の展覧会である。

吉岡幸雄は、京都で江戸時代末期から続く染色工房の五代目当主であり、染織史家でもあった。吉岡は古来の文献をひもとく、伝世の染織遺品をはじめ古今東西の美術工芸を研究して伝統の色彩を求めた。各地に伝わる染料・素材・技術を訪ねて、その保存と復興に努め、杜宇の祭祀、古典文学などにみる色彩や装束の再現・復元にも力を尽くした。

本展では、吉岡幸雄の美への憧憬と本質を見極める眼、そしてあくなき探求心によって成し遂げられた仕事と蒐集の軌跡を紹介する。

期 間 4月11日（日）まで
前期：2/21まで 後期：2/23～4/11
10：00～17：00
※入館は16：30まで
休 館 日 月曜日（祝日の場合は翌火曜日）
会 場 細見美術館
京都市左京区岡崎最勝寺町6-3
TEL.075-752-5555
※入館の際にはマスク着用のこと
観 覧 料 一般1,400円、学生1,100円
*障がい者手帳等をお持ちの方は100円引き

本欄掲載の1～4の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手（84円）を日本建築協会事務局までお送りください。

事情により開催内容が変更、もしくは中止となる場合もございますので、会場WEBサイト等で最新情報をご確認ください。

編集委員会

第7回広告企画・編集合同委員会

12月17日（木）17：00～17：30

WEB会議

出席者 勝山委員長ほか5名

- 議 事 (1) 1月号特集 社会的危機を超える
佐野正一先生誕100周年記念特集
(2) 2月号特集 私の空間作法
(3) 3月号特集 東海支部特集
(4) 4月号特集 建築と社会の時代性を考える(仮)
(5) 5月号特集 WELL COME(仮)
(6) その他「建築と社会」活性化の動き

第1回建築計画系分科会

12月10日（木）19：00～21：05

WEB会議

出席者 樋口委員長ほか6名

- 議 事 (1) 新委員紹介
(2) 新年度幹事人事
(3) 2021年4月号特集テーマ案

第4回インテリア・住宅系分科会

12月7日（月）19：00～19：50

WEB会議

出席者 黒柳幹事ほか3名

- 議 事 (1) 2021年4月号特集テーマ案
(2) 今後の予定

第8回構造分科会

12月4日（金）18：00～19：00

WEB会議

出席者 岸本幹事ほか6名

- 議 事 (1) 「構造の頁」の企画
(2) 「建築と社会」活性化特別編集委員会の動き
(3) 2021年4月特集の企画

第7回設備分科会

12月11日（金）18：00～19：20

WEB会議

出席者 橋本幹事ほか3名

- 議 事 (1) 2021年4月号特集テーマ案
(2) 「設備の頁」の企画
(3) 2021年設備特集の企画

第3回施工材料分科会

12月7日（月）17：00～18：10

WEB会議

出席者 山口幹事ほか5名

- 議 事 (1) 2021年4月号特集テーマ案
(2) 2021年10月号特集テーマ案

第4回法令分科会

12月16日（水）15：00～16：45

日本建築協会会議室&WEB会議

出席者 垣内委員長ほか3名

- 議 事 (1) 法令コーナーの企画
(2) 2021年4月特集の企画
(3) 2021年9月特集の企画

第7回作品作風小委員会

12月24日（木）19：00～

WEB会議

出席者 太田小委員長ほか3名

- 議 事 (1) 作品の選定
(2) 作品の掲載状況、予定
(3) gallery掲載報告、予定
(4) その他

第4回特別編集委員会

12月15日（火）18：30～20：10

WEB会議

出席者 設楽会長、勝山委員長ほか13名

- 議 事 (1) 4月号特集のテーマの検討
(2) 会誌の電子化に向けたスケジュールについて
(3) 作品掲載の活性化について

出版委員会

第6回出版委員会

12月22日（火）16：00～17：10

WEB会議

出席者 西委員長ほか10名

- 議 事 (1) 既刊書籍経過報告
(2) 制作進行中の書籍
(3) 今後の出版テーマ
(4) 建築セミナー

教育委員会

第2回工高生教育小委員会

12月9日（水）18：15～19：10

WEB会議

出席者 谷口委員長ほか2名

- 議 事 (1) 次年度第67回工高生デザインコンクール募集規定の件
(2) 次年度の審査委員長並びに審査委員の委嘱
(3) その他

第9回大阪府住まい・まちづくり普及協議会

12月18日（金）10：30～12：00

WEB会議

報告・議題

- (1) 出前講座
(2) ATCエイジレスセンターリモート見学会 参加
(3) その他

未来創生プロジェクト

第7回建築次世代委員会

12月1日（火）18：45～20：10

WEB会議

出席者 菅原委員長ほか5名

- 議 事 (1) 学生のための見学会実施報告
(2) 学生に向けた映像コンテンツ制作について

第8回建築次世代委員会

12月22日（火）18：45～20：20

WEB会議

出席者 菅原委員長ほか8名

- 議 事 (1) 学生のための見学会
南門復原整備工事見学会とインタビューの動画の使い方について検討

第5回2040委員会

12月21日（月）19：30～

PARK Lab.&WEB会議

出席者 駒井リーダーほか6名

- 議 事 (1) 企画内容
(2) 今後の委員会活動

第13回U-35委員会

12月17日（木）19：30～

WEB会議

出席者 高畑リーダーほか6名

- 議 事 (1) 活動／予定
(2) 次回予定／その他

審査会

第2回論考コンクール審査委員会

12月2日（水）19：00～20：00

日本建築協会会議室

出席者 高田審査委員長ほか3名

- 議 事 (1) 1次審査の方針
(2) 公開プレゼンテーション

編集委員会（2020年度）

■副会長

川合 智明

■編集担当理事

○勝山 太郎

佐藤 栄一

橋寺 知子

西 博康

菅野 忠司

山田 淳

吉村 英祐

■副委員長

○戸川 勝之

■編集委員

中原 岳夫

■特集小委員会

■計画分科会

★計画系

飯田 匡

鈴木 克彦

△田中 直人

林 雄太

松田奈緒子

守井 辰

吉村 英祐

★建築計画系

桑原 悠樹

下坂 浩和

東 拓郎

△樋口 展寛

三谷 帯介

米山 剛史

渡部 剛

東 一彦

平岡 翔太

★インテリア・住宅系

赤川貴世友

東 奈生子

今井 充彦

高橋 伸明

川合 隆之

河西 孝平

△黒柳 亮

ベリー史子

■構造分科会

宇野 綾真

岡田 健

△岸本 光平

古島 正博

正野 和司

瀧野 敦夫

竹本 孝輔

萩原 学

宮久保秀樹

向井 洋一

■設備分科会

有尾清二郎

木谷 晃之

北野 勝也

寺井 千佳

仲村 憲一

夏井 重行

△橋本 直樹

梶井 貴廣

宮崎ひろ志

森山 正和

山本 雅洋

■施工材料分科会

門野 陽

桜井 和男

秋竹 教行

藤丸 啓一

△山口 紀宏

河合 智寛

吉田 正友

岡田 淑子

■法令分科会

△岡田 耕介

垣内 明

河野 学

西 雅昭

福岡 誉顕

■作品作風小委員会

居内 章夫

池上 明

石井眞由美

稲垣 和江

▲太田 栄治

加嶋 章博

菊池 浩輔

倉渕奈千子

澤田 純一

高木 秀晃

鞆野 淳司

西田 佳代

藤原 寛

平野 尉仁

増田 敬彦

■広告企画小委員会

小川 雄介

金築 雄

小山 昭

野山 将男

藤田 昌宏

▲前田 衛

山辻 直樹

(順不同)

○委員長

○副委員長

▲小委員会委員長

△幹事

印刷 2021年1月27日

発行 2021年2月1日

発行人 一般社団法人日本建築協会

大阪市中央区大手前1-7-31

電話 06-6946-6981

印刷所 株式会社弘文堂印刷所

定価 1254円(税込)

©「建築と社会」誌の記事の無断転載を禁じます

**お客様の抱える問題やニーズに
より速やかに、より丁寧に対応できるように**

企画・デザイン、制作、製版、印刷

株式会社 中島弘文堂印刷所

本 社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL.06-6976-8761 / FAX.06-6976-8765

東京支社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1丁目4-2 風雲堂別館ビル2階
TEL.03-3526-5580 / FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社 日本電気化学工業所

<http://nacl.jp> E-mail: sc@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目6-7

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

年間広告のご案内

会誌「建築と社会」では、後付部分に
広告スペースを設けております。

1年を通じて、社名広告を掲載されませんか？

掲載期間：4月号～翌年3月号までの1年間

掲 載 料：48,000円（消費税込み）

サ イ ズ：1/12頁（タテ40mm×ヨコ90mm）

※毎月掲載誌をご送付します。

※原稿は1年間同じ原稿を使用します。

お問い合わせ先

一般社団法人 日本建築協会 内山・井筒

TEL：06-6946-6981 FAX：06-6946-6984 E-mail：koukoku@aj.or.jp

AIRTECH
Clean Air Innovation

**クリーンパーティションは
ウイルス対策に広く利用されています。**



★意匠登録取得済

クリーンパーティション
ACP-897型



診察・検体採取ブース

感染者または感染が疑われる患者との直接的な接触を避けるため設置します。クリーンパーティションを2台使用しています。

★クリーンパーティションは日本エアテック(株)のオリジナル製品です。

日本エアテック株式会社

E-mail: info@airtech.co.jp

東証1部(6291)

【本社】〒110-8686 東京都台東区入谷1丁目14番9号 【営業所】東北/中部/北陸/関西/中国/九州/南九州 【海外】中国/シンガポール/台湾/ベトナム/韓国/インド/ドイツ



日本建築協会 出版委員会企画の新刊

日本建築協会 企画

仲本尚志・馬渡勝昭・長瀬正 著

図解

建築と 構造の 接点

トラブル予防のツボ100

プラン変更に対応できず柱が邪魔になった

マンション上階の騒音・振動がひどい

鉄骨のあらわし部分が見苦しい

構造スリットから漏水した...etc.

**建築デザイナー
×
構造エンジニア
協業不足で
トラブルになる
ポイントはここだ!**

A5判・256頁・定価 本体2800円+税

学芸出版社

〒600-8216

京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

Tel 075-343-0811

Fax 075-343-0810

http://www.gakugei-pub.jp/

E-mail info@gakugei-pub.jp